

論 文

琉球ツル・レコードのディスコグラフィー

—戦前・沖縄音楽専門レーベルの活動と軌跡—

A Discography of Ryukyu Tsuru Records:
Activities and History of the Pre-war Label Specializing in Okinawan Music

高橋美樹（高知大学教育学部・音楽学研究室）

Miki TAKAHASHI

Laboratory of Musicology, Faculty of Education, Kochi University, Kochi, Japan

ABSTRACT

The aim of this study is to create a discography for Ryukyu Tsuru Records, clarify the actual situation of the record company specializing in Okinawan music, and delineate the process by which it took shape. Notably, surviving catalogues were crosschecked for recorded song titles, singers and musicians, genres, disc numbers, and years of issue. This study has five conclusions, which are stated below. First, Ryukyu Tsuru Records is the label under which Seikoudo of Naha City in Okinawa Prefecture produced 78rpm SP records between 1926 and 1936. The distribution of the same expanded overseas, from a base in Okinawa Prefecture, with the discs being exported to Hawaii. Second, Seikoudo entrusted Asahi Gramophone Co. Ltd. of Nagoya with the pressing of discs for Ryukyu Tsuru Records. Singers and musicians were brought from Okinawa to Asahi Gramophone in Nagoya to record in their studios. Third, the 207 78rpm SP records sold between 1926 and 1936 contained 349 pieces of music in 52 works (a total of 414 tracks). The most frequently recorded genre was Okinawan classical music, followed by, in descending order, Okinawan opera, Okinawan folk music, and kumiodori. Fourth, the most relevant recording artists were Tomihara Seiyu, Takara Chosei, Takara Kanako, Akamine Kyoko, Tamagusuku Seigi, Nakadomari Kenpo, and Matayoshi Eigi. Fifth, examples of activity related to Ryukyu Tsuru Records are described. On August 10, 1929, Seikoudo founder, Taira Shinsei, played records of the kumiodori, Hanauri no En, on a large gramophone to an audience at a Ryukyu classical theater research symposium. Additionally, North American immigrants of Okinawa heritage who returned to Okinawa in 1931 bought some Ryukyu Tsuru Records discs, which were subsequently enjoyed by the Okinawan community in North America. These discs were donated to the municipality of Haeburu in Okinawa Prefecture in 1991.

はじめに

本研究の目的は、琉球ソル・レコードのディスコグラフィーを作成し、沖縄音楽専門レコード会社の成立過程とその実態を明らかにすることである。特に、録音した曲名、歌手・演奏者、ジャンル、レコード番号、発売年について、現存する資料を照合し、整理する。

レコード会社の歴史を明らかにするためには、ディスコグラフィー(レコード会社が発売したレコードを網羅した一覧表)の作成が不可欠である。ディスコグラフィーを作成することにより、レコード会社がどのジャンルを重視し、どの歌手・演奏者を重用していたかなど、制作の商業戦略を推察することができる。そして、当時大衆に支持されていた音楽の傾向を把握できる。

戦前に設立・活動していた沖縄音楽専門レコード会社はマルフク・レコード、琉球ソル・レコード、トモエ・レコード、ヤマキ・レコードの4社である。制作は自社で実施し、レコード盤のプレス製造は大手のレコード会社に委託していた。よって、正確には制作・製造・宣伝の全てを担うレコード会社ではなく、レーベルと呼ぶ方が適切であろう。

日本ではレコード会社を対象とした研究は進展しておらず、国内で発売されたレコードの全貌は明らかになっていない。レコード会社の歴史に関する記録はコロムビア、ビクターなど大手メジャーに限定され、戦前に解散・廃業した会社の記録はほんの僅かしかない。とりわけ、沖縄音楽専門のレコード会社は戦前4社・戦後5社(マルタカ、丸福、マルテル、RBC、ゴモン)も存在していたにも拘らず、その実態は全く知られていない。その根拠として、レコード研究の基本文献である倉田喜弘の著書『日本レコード文化史』(1979)、森本敏克の著書『音盤歌謡史』(1975)に沖縄のレコード会社に関する記述は見当たらない。

さらに、現存するSPレコードから曲目・作詞家・作曲家・歌手・演奏者・レコード番号を採録した『SPレコード60,000曲総目録』(2003)にも、沖縄音楽レコードに関する記録はない。「各種SPレコード・レーベル」に沖縄音楽専門レコード会社が登場しないのは、この目録が日本本土で発売されたSPレコードに限定しているからだろう。

福岡2007によると、韓国では音盤学 discography と命名した学問領域が、1989年韓国古音盤研究会の結成により胎動した。そして、各レコード会社の音盤目録を用いた実証研究が蓄積しているという。日本コロムビア・レコードに関する研究も進展し、その成果として『韓国留聲機音盤総目録』などのディスコグラフィーが出版された。

一方、日本の音楽研究では録音に関して、楽譜に続く二次的資料という取り扱い方が多く、ディスコグラフィーを活用した研究の意義が浸透しているとはいえない。ただし、民族音楽学とポピュラー音楽研究の分野では音楽産業研究の一環として、

下記(A)～(E)の研究が成果を挙げている。

(A) 細川周平 2004年度「日本コロムビアの『外地』録音に関するディスコグラフィー的研究」

(B) 福岡正太 2005-2006年度: 科研・基盤C「植民地主義と録音産業—日本コロムビア外地録音資料の研究」

(C) 大西秀紀 2012-2016年度: 科研・基盤C「オリエントレコードの社史調査とディスコグラフィの作成」

(D) 大西秀紀 2017-2020年度: 科研・基盤C「ニッソー、ナショナル、日蓄オリエントのディスコグラフィ作成」

(E) 大西秀紀 2021-2023年度: 科研・基盤C「内外・タイハイレコードのディスコグラフィ作成」

(A)(B)は国立民族学博物館所蔵コロムビア外地録音 SP(6800枚)を資料として、昭和初期にソウル、台北、上海で発売したレコードのデータをディスコグラフィーとして整備・公開した。

(C)はオリエントレコード(東洋蓄音器)のディスコグラフィーを作成・公開した。ただ、(A)(B)は大手レコード会社の旧日本帝国領地による録音であり、(C)(D)(E)は戦前に設立・廃業した主に関西地方のレコード会社を対象とする。

(A)～(E)の研究範囲に本研究の対象である沖縄音楽専門レコード会社は含まれていない。沖縄音楽文化圏9社のレコード会社が世に送り出した音楽の解明は、これまで誰も着手していない。筆者は今後、9社のディスコグラフィーを個別に公開するべく準備を進めている。

まず1社目として、戦前、沖縄県那覇市を拠点とした琉球ソル・レコードを対象とした。その理由として、複数の販売目録とSPレコードが現存していることが挙げられる。特に、販売目録から、SPレコード207枚の曲名、歌手・演奏者などが明らかにできる。販売目録は沖縄県立図書館、SPレコードと歌詞カードは沖縄県南風原文化センター、山城研究所に所蔵されている。

筆者はこれまで沖縄、日本本土、北米、南米で発売された沖縄音楽の商業レコードに関する研究を進めてきた。その研究は3点に分けられる。

第1に〈日本の大手レコード会社の研究〉として、高橋2012aでは1930年代に日本コロムビアが制作した沖縄音楽レコードの歴史的意義を、現地沖縄の〈媒介者〉であった民俗学者・喜舎場永珣の役割を通して論じた。

第2に、〈海外の沖縄系移民社会における研究〉として、海外に渡航した沖縄系移民が望郷の想いを募らせ制作したレコードについて、演奏者・制作者の言説やレコード音源を分析し、その実態を明らかにした。高橋2007ではマルフク・レコードを設立した普久原朝喜がレコード制作における〈媒介者〉として、どのような方策を実践していたのかを明らかにした。高橋2012bではマルフクによるレコードが国境を越え、複製盤や海賊盤

が制作・販売されることにより、海外の沖縄系エスニック・コミュニティの人々へ届けられていたことを明らかにした。

第3に、〈民族音楽研究者・田辺尚雄旧蔵のレコード研究〉として、沖縄県立芸術大学附属図書館「田辺文庫」の沖縄音楽資料を活用した。高橋 2020 では大阪蓄音器、ニッポノホン(日本蓄音器商会)、トンボ印ニッポン、コロムビア、トモエの各レコード会社別に選曲、人選、ジャンル、使用楽器、宣伝方法、製造会社を明らかにした。

なお、引用文の旧字体・旧仮名遣いは新字体・新仮名遣いに改めた。□は判読不明文字を示す。掲載する写真は全て筆者が撮影したものである。写真1～8は南風原文化センター、図5『昭和11年特選新譜目録』は沖縄県立図書館の所蔵である。

【凡 例】

1. データは原則的に SP レコードの中央に貼付されたレーベルの表記に従う。ただし、記載された表記に明らかな誤字、脱字が認められた場合に限り、訂正を加えた。また、人名以外の旧字体は新字体に改めた。

2. 項目は①レコード番号(目録)、②曲名、③歌手・演奏者、④記載ジャンル、⑤分析ジャンル、⑥推定発売年、⑦目録、⑧備考とする。

④はレーベルに記載された音楽ジャンル名である。

⑤は本研究の分析概念として、沖縄の音楽に関するジャンルの定義を筆者が設定し分類した。「琉球古典音楽」(古典と略)とは琉球王国時代に首里の士族層によって育まれた歌を指す。野村流『声楽譜工四』上巻、中巻、下巻、続巻に掲載の曲目を「琉球古典音楽」に分類した。「沖縄民謡」とは沖縄本島及び周辺諸島で伝承されてきた作者不詳の歌謡を指す。「宮古民謡」とは宮古島及び周辺諸島で伝承されてきた作者不詳の歌謡を指す。「八重山民謡」とは八重山諸島で伝承されてきた作者不詳の歌謡を指す。「奄美民謡」とは奄美諸島で伝承されてきた作者不詳の歌謡を指す。「沖永良部民謡」とは沖永良部島で伝承されてきた作者不詳の歌謡を指す。「新民謡」とは作詞者、作曲者が明らかな歌謡を指す。「歌劇」とは台詞を民謡のメロディーにのせて展開する劇を指す。近代以降、那覇や首里の商業演劇の世界で発展した。「組踊」とは18世紀以来、琉球(沖縄)で伝承されてきた音楽、舞踊、台詞で構成された沖縄独特の伝統楽劇を指す。「御座楽^{ぎやく}」とは琉球王国時代に江戸上りや冊封使歓待のために演奏された宮廷音楽を指す。「舞踊曲」とは沖縄に伝わる舞踊のための曲を指す。「漫談」とは滑稽な語りを主とする芸で、三線^{さんしん}伴奏を加え、複数人で掛け合うこともある。

⑥について、SP はレーベルに発売年を記載する習慣がない。よって、レコード目録、新聞広告、文献情報などを基に発売年を推定した。

⑦目録は『琉球音譜目録』=A、『新譜目録』=B、『優秀盤既発売

目録』=C、『普及盤目録』=D、『昭和11年特選新譜目録』=E、『昭和11年臨時発売新譜目録』=Fに略した。A・Bは山城研究所、C・D・E・Fは沖縄県立図書館の所蔵である。

⑧備考には SP 記載のレコード番号、レーベル紙・文字色(赤、黒、緑、金)、作詞者・作曲者、CD 復刻情報、歌詞カードの有無を記した。

1. 琉球ツル・レコードと盛興堂

琉球ツル・レコードとは盛興堂が発行した沖縄音楽専門レーベルである。SP 盤の製造は名古屋のアサヒ蓄音器商会に委託していた(内務省警保局 1981a:381 参照)。盛興堂について蓄音器販売名鑑など調べたところ、『東洋時計貴金属・眼鏡蓄音器商工名鑑』1921 に下記の記録が見つかった。

沖縄県那覇市

営業品目：時計・貴金属・眼鏡

住所：那覇市上ノ蔵町 1-36

家号：盛興堂

姓名：平良晨盛(日本貴金属時計新聞編輯局編 1921)

1921(大正10)年当時、平良晨盛により時計・貴金属・眼鏡を扱う販売店だったことがわかる。

『蓄音器時報』1934年4月号には次のように記された。

沖縄蓄音器商組合

盛興堂 平良晨興

那覇市上之蔵町 1-26 電 530

(東京蓄音器商組合 1934:6)

『東洋時計貴金属 眼鏡蓄音器商工名鑑』には「時計・貴金属・眼鏡/那覇市上ノ蔵町 1-36」と記載され、責任者は平良晨盛である。13年後に発行された『蓄音器時報』では責任者が平良晨興へ変わっている。さらに、住所も「那覇市上ノ蔵町 1-36」から「那覇市上ノ蔵町 1-26」へ移転した。番地は誤植の可能性もあるが、変更後の記録は沖縄日報社編 1937:317 でも確認できる。責任者や住所の変更は、以下の理由によるものだった。

盛興堂蓄音器店主 平良晨興 那覇市石門通り

氏は首里市に生れ故晨盛の長男にして昭和6年鹿児島商業学校を卒業、同8年嚴父を失い、若年ながら家業を継ぐ、同店は琉球レコード界の元祖として製作販売に専念し信用を得て販路は県下県外は勿論海外植民地に進出し南米、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、布哇、南洋方面にも特約店を設け、郷土音楽の芸術普及に尽力しつつあり。氏は歳幼くして商業に熱心着実なれば前途大いに見るべきところあり、現に沖縄蓄音器組合書記

長の要職にあり(下線部筆者)(1935『関西沖縄興信名鑑』附録3)。

上記によると、1933年父・晨盛亡き後、長男・晨興が店を継承し、レコード制作・販売に取り組んだことがわかる。海外への特約店については後述する。

また、盛興堂は1935年『関西沖縄興信名鑑』に広告を掲載していた(図1参照)。図1では「郷土沖縄民謡のレコード/和洋楽器販売」と銘打ち、「創業20年琉球レコード界の元祖/製造販売元 盛興堂本店/店主 平良晨興」に加え「盛興堂支店/那覇市上之蔵町新天地通り」を設けている。1935年が「創業20年」に当たるとすると、盛興堂の創立年は1915(大正4)年となる。



図1 盛興堂本店・支店の広告(1935『関西沖縄興信名鑑』)

内務省警保局による『昭和9年6月蓄音機レコード発行所其他調』には、次のような記録がみられる。

●沖縄県

●品名：ツルレコード

定価及大サ：10吋 1.50

製作所ノ名称及所在地：名古屋市東区東大曽根町
アサヒ蓄音器商会

発行所ノ名称及所在地：那覇市上之蔵町1ノ26 盛興堂

発行総数：455

1月平均新譜数：6

発行所責任者：平良晨興

吹込所製作所ニ同ジ

営業状態：個人経営、管下ニ於テ発行ノレコードハ本県特殊ノ
歌謡ニシテ年1回又ハ隔年臨時吹込者ヲ囑託シテ1種2百枚宛
ヲ製作セシメ売行キニ依リ増製セシ居ル状態ナリ

(下線部筆者)(内務省警保局図書課1934)

上記によると、製作(製造)は名古屋市のアサヒ蓄音器商会である。発行所は那覇市上之蔵町1ノ26の盛興堂で、発行所責任者は平良晨興である。注目すべきは「吹込所製作所ニ同ジ」が示す実態であろう。録音の際は歌手・演奏者が名古屋まで遠征し、アサヒ蓄音器商会のスタジオで録音していたと推察できる。そして、1934年時点の発行総数は455枚、1月平均新譜数は6枚である。「1種2百枚宛ヲ製作セシメ売行キニ依リ増製セシ居ル」とは、SPレコードを各200枚ずつプレス製造し、売れ行きが良ければそのSPのみプレス枚数を増やすという方法である。

SPのサイズは10インチ、定価は1円50銭であった。なお、1936(昭和11)年12月末現在(内務省警保局1981b:580)の記録ではSPサイズは10インチと変わらず、定価は1円40銭と安価になっている。

また、内務省警保局による1938(昭和13)年12月末の記録は以下の通りである。

沖縄県那覇市上之蔵町1-26 平良晨興

琉球ツルレコード(琉球盤)

アサヒ蓄音器社ニテ製作。現在新譜ノ発行ナシ

(内務省警保局1938:15)

つまり、1938年12月時点では新譜を発行していない。筆者がレコード目録、SPレコード、新聞広告を照合した結果、1936年9月の発売が最終期である可能性が高い。

また、1934年8月1日以降、内務省警保局図書課でレコード検閲が開始された。ツルレコード発売の沖縄民謡レコードは検閲に取り上げられ、以下の記事となった。

午前11時半ごろになって名古屋市からアサヒ蓄音器商会のツルレコード19枚の小包が、先陣を承わってやって来た。早速1坪ばかりの検閲室へ入って、聴いてみると、これがまた琉球の民謡で『月ぬ夜ん夜いい闇ぬ夜ん夜い…』というようなわけ、なんのことやらわからずあわてて歌詞をとりあげてみたりした、ツルレコードに15分遅れて日本ヴィクター会社が9月新譜70

枚をどかっと持ち込んだ、内務省の厳めしい建物のなかには、時ならぬ艶めかしい三味線の音や、陽気なジャズが洩れて、若い警官やタイピストの足が自然にステップに誘われるのもレコード検閲の生んだ新風景だ(下線部筆者)(1934年8月2日『読売新聞』夕刊:3)。

『月ぬ夜ん夜いい闇ぬ夜ん夜い…』は沖縄民謡《月ヌ夜節》の歌詞である。SP『汀間當節・月ヌ夜節』(レコード番号:438)は1934年多嘉良カナ子・多嘉良朝成が歌い、琉球ツル・レコードから発売された。他の沖縄音楽専門レーベル(例:マルフク)でも、琉球方言による歌詞を検閲係が正確に理解できず、発売禁止になった例がある。

2. 製造元・名古屋のアサヒ蓄音器商会

1925(大正14)年6月、株式会社アサヒ蓄音器商会は名古屋市東区東大曽根町南4丁目170に設立された。その前身は大和蓄音器商会であり、「レーベル名は、『アサヒ』、マークは日の出にツルを配したデザインだった」(岡田1992年3月:111)。「アサヒ蓄音器商会は、大和蓄音器商会の原盤を引き継ぎ、レーベルも同じデザインのツル・マークを付けたまま継承したが、『アサヒ』というレーベル名を廃止して、『ツル印』と名称変更してスタートした」(岡田1992年3月:111)。神野三郎が取締役社長を務め、「浪曲や落語、端唄・小唄などの大衆的な演目を中心に幅広いレパートリーを誇った」(山崎1999年1月12日)。

岡田則夫は日本で最初の電気吹き込みについて、次のように述べている。

アサヒ蓄音器商会は、日本で最初の電気吹き込み(マイクロフォン吹き込み)のレコードを製造した会社である。昭和2年9月に電気盤の第3回目の新譜発表の広告があるので、第1回目の発売は2年7月頃であろう。日本コロムビアも日本ビクターも日本譜の電気盤の発売は昭和3年に入ってからなので、アサヒ蓄はそれよりもかなり早いことになる。レコード番号2010番前後がごく初期の電気吹き込み盤(岡田1992年3月:110-111)。

実際、筆者が現物を確認したSPレコードの中で、1926年～1928年発売(推定)のSPレコードに「電気吹込」の文字は見当たらない。だが、1929年～1932年発売(推定)の21枚のレーベルには「電気吹込」の文字が刻まれていた。いち早く導入した「電気吹込」を宣伝戦略のメインにすべく、レーベルにも印字したのだろう。

アサヒ蓄音器は数多くのレーベルを持ち、『昭和9年中に於ける出版警察概観』には、ツルレコード、サンデーレコード、シスターレコード、月虎レコード、高塔レコード、サロンレコード(朝鮮譜)、鶴標唱片レコード(台湾譜)、琉球語レコードの8

レーベルが記録されている(内務省警保局1981a:376)。琉球語レコードは10インチで1枚1円、1円20銭で販売されていた。だが、この「琉球語レコード」は琉球ツル・レコードとは異なるものだったと推察される。

『昭和9年6月蓄音機レコード発行所其の他調』の愛知県の項には、次の記録が見られる。

品名	ツルレコード(琉球語吹込)		
定価及大サ	1円20銭	10吋	
	1円	10吋	
製作所ノ名称及所在地	名古屋市東区東大曽根町南4丁目170番地 株式会社アサヒ蓄音器商会		
発行総数	193		
1月平均新譜数	半期二20		
吹込所	発行所二同(内務省警保局図書課1934)		

上記は10インチで1枚1円、1円20銭で販売していた『昭和9年中に於ける出版警察概観』琉球語レコードの記録と一致する。発行総数は193枚とあり、盛興堂の委託盤とは別に琉球語によるレコードを制作していたと考えるのが妥当であろう。

一方、筆者は未見だが、ツル印SP『遊ビ子持節』(特8-A)唄:永村清蒲、笛:外間完直が発売されていた(参考URL:S P盤雑学ノート参照)。レーベル下部に「株式会社アサヒ蓄音器商会」と印字がある。筆者が入手した琉球ツル・レコード目録に、永村清蒲、外間完直による録音は見当たらなかった。上記の「琉球語レコード」に該当するSPかもしれない。なお、沖縄芝居で活躍した俳優・永村清蒲は1926年内外レコード(内外蓄音器商会)で、1930年代初期にマルフク・レコードで民謡、漫談、歌劇を収録していた(高橋2020:258-259参照)。

岡田によると、「アサヒ蓄音器商会のレーベルの特徴は、自社製造・発行のレーベル以外に、アサヒ蓄製造・他社発行のレーベルも数多くあることであろう。つまり、製造設備を持たない群小のレコード会社の委託製造盤も手掛けていた」(岡田1992年4月:98)。盛興堂はアサヒ蓄音器商会へ琉球ツル・レコードの委託製造を依頼し、完成した商品を販売していた。

なお、アサヒ蓄音器商会は「1939年1月16日、その建物・機械一切を『金壺ゴム株式会社』(後に『東洋合成化工株式会社』と改称)へ売却し…中略…『アサヒ蓄音器商会』は完全にその歴史を閉じたのであった」(神野三郎翁伝記編纂委員会編1965:546)。

3. 琉球ツル・レコードにみる音楽ジャンルの分類

表1 琉球ツル・レコードのディスコグラフィ(1926年～1936年)は凡例に沿って作成した。『琉球音譜目録』『新譜目録』『優秀盤既発売目録』『普及盤目録』『昭和11年特選新譜目録』

『昭和 11 年臨時発売新譜目録』に記載されたレコード番号 1～520 (SP:207 枚) のジャンル名と曲名を整理した。さらに、筆者による分析ジャンル名と目録、備考を追加した。目録に記載はないが、レコード現物により情報を把握できた 205～206、211～212、253～261、419～420 も加えた。

録音曲目は全 349 曲 52 作品 (全 414 トラック) であり、レーベルには下記のジャンル名が記載されていた。

琉球音楽、琉球音楽野村流、俚謡、琉球俚謡、琉球端唄、沖縄民謡、小唄、端唄、ナンセンス小唄、久米島民謡、宮古民謡、八重山民謡、本場八重山民謡、大島民謡、木挽唄、諷刺口説、旅情小唄、新作流行歌、女情戀歌、女情哀歌、萬才、落語・萬歳、盆踊り、コリ舟踊、踊り節組、鶴亀踊節、古典劇、古典劇組踊、琉球古典劇、波之上劇、琉球歌劇、沖縄喜劇、沖縄歌劇、歌劇、喜歌情の歌、喜歌劇、悲歌劇、喜劇・歌劇、新作歌劇、旧歌劇、安富祖流歌劇、狂言、文言

凡例⑤の分析概念に基づき、全 414 トラックのジャンルを分類した結果が表 2 である。レコード片面を「1 トラック」として集計したが、片面に「古典／民謡」など 2 つのジャンルが収録された場合は「古典＝0.5 トラック」「民謡＝0.5 トラック」と数えた。3 つのジャンルが収録された場合は、個々に 0.3 トラックと数えた。最終的にジャンル別で集計する際、小数点第 1 位までの数値にするため微調整した。表 2 の「割合」とは全 414 トラックに対する当該ジャンルの割合である。

表 2 琉球ツル・レコードの曲・作品数、トラック数
(1926 年～1936 年)

ジャンル	曲・作品/数	トラック数	割合
古典	166曲	126	30.4%
沖縄民謡	98曲	69	16.7%
宮古民謡	11曲	8.5	2.1%
八重山民謡	36曲	28	6.8%
奄美民謡	2曲	1	0.2%
沖永良部民謡	3曲	2	0.5%
新民謡	5曲	5	1.2%
歌劇	46作品	108	26.1%
組踊	5作品	42	10.1%
御座楽	1曲	0.5	0.1%
舞踊曲	23曲	20	4.8%
漫談	1作品	1	0.2%
不明	4曲	3	0.7%
全体	349曲52作品	414	100.0%

全 349 曲 52 作品 (全 414 トラック) の数値をジャンル別のグラフにすると、図 2 になる。

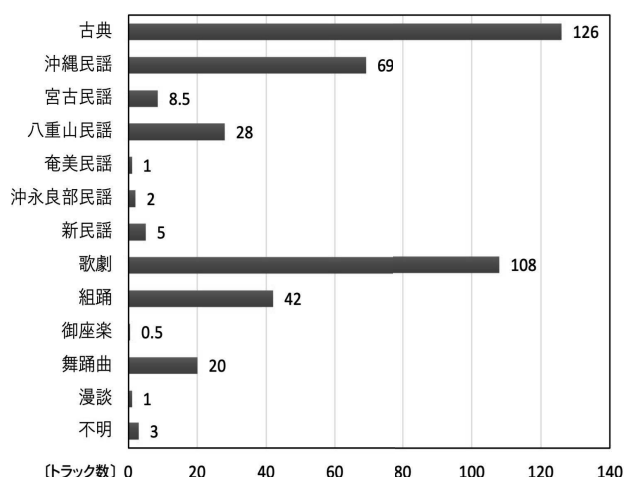


図 2 琉球ツル・レコードにみる音楽ジャンル
(全 349 曲 52 作品) (全 414 トラック)

グラフを見ると、最も収録が多いジャンルは 126 トラックの古典であり、全体の 30.4% を占める。2 番目に多いジャンルは歌劇で 108 トラック (26.1%) である。歌劇と古典を合わせると 56.5% になり、全体の半分以上を占めていた。3 番目に多いのは沖縄民謡 69 トラック (16.7%)、4 番目に多いのは組踊 42 トラック (10.1%) である。演劇分野の歌劇と組踊を合わせると、150 トラック (36.2%) になる。つまり、全体の約 4 割を演劇分野が占めていた。1926 年～1936 年は歌劇や組踊など、演劇ジャンルの需要が極めて高かったことを示している。

また、高橋 2007 でマルフク・レコードのジャンルを分類した際、歌劇が全体の 22.6% を占めていた。歌劇の収録割合が極めて高い傾向は、琉球ツル・レコードの分析結果と共通する。

民謡ジャンルである沖縄民謡、宮古民謡、八重山民謡、奄美民謡、沖永良部民謡を合わせると、108.5 トラック (26.3%) となり、全体の 1/4 に相当する。新民謡は予想外に少なく、5 トラック (1.2%) であった。創作者は川田松夫 2 曲、松岡白夢 2 曲、島袋盛順 1 曲の合計 5 曲である。マルフク・レコードは設立者の普久原朝喜自身が作詞作曲し、新作を発表していた。だが、琉球ツル・レコードでは新民謡を創作する人材を独自に養成していた記録は見られず、極めて少ない収録数となった。

4. 琉球ツル・レコードで録音した歌手・演奏者

琉球ツル・レコードで録音した歌手・演奏者は下記の通りである。

崎濱カメ子、當眞嗣勝、平田秀徳、盛興初音 (平良初音)、中村文五郎、島袋松雄、大城シズ子、高宮城朝篤、津嘉山朝度、志次眞マツ子 (志慶眞マツ子)、泉川寛興、平良晨盛、富原盛勇、嘉納平良芳 (正しくは: 嘉手納良芳)、端慶山良秀、多嘉良朝成 (多嘉良兼兄)、多嘉良カナ子、板良敷朝望、山盛清吉、島袋盛順、上間

ツル子(金春つる子)、赤嶺京子、宮平壽郎、玉城盛義、玉城盛重、親泊良吉、仲泊兼蒲、又吉栄義、大山徹、大山音子、照屋光子

これらの中で、経歴が確認できた者を取り上げ、紹介する。

4.1 歌手・演奏者の経歴

(1) 崎濱カメ子

崎濱カメ子は 1926 年兵庫県の内外レコードで普久原朝喜らと《九年母木節・ハンダバル節》など沖縄民謡を録音している(高橋 2012b 参照)。例えば、「(S136) は沖縄民謡《恋の花節》を豊福亭・崎濱カメ子が歌い、朝喜がヴァイオリンを担当している」(高橋 2012b:139)。

(2) 富原盛男(1875-1930)

富原盛男は 1875(明治 8)年「那覇市繁多川の生まれ…中略…10 歳のころから三線を覚え…中略…その後、寒水川(スンガー)芝居(筆者注:1879 年首里寒水川村に建てられた芝居小屋)の団員になる…中略…地謡を務めのかたわら組踊にも出演した」(大城 1996:39-40)。琉球ツル・レコードでも地謡や俳優の経験を活かして、組踊「忠孝婦人」、歌劇「主と妻節」「碁打口説」に参加し、沖縄民謡、八重山民謡、奄美民謡など多様なレパートリーを収録した。

また、富原の歌う《ナークニー》は装飾音を多用する三線奏法が特徴である。その奏法は普久原朝喜を初め、世代を越えて影響を与え「富原ナークニー」と称されている。

(3) 嘉手納良芳(1882-1945)

嘉手納良芳は明治中期から昭和 20 年まで、沖縄演劇の世界で球陽座、珊瑚座などに所属し、俳優や地謡として活躍した人物である(高橋 2020:265 参照)。嘉手納は古典、沖縄民謡、歌劇「碁打口説」とレパートリーの豊富さが際立っており、俳優や地謡としての豊富な経験が録音に反映された。なお、《今年前田節》は 1917 年(推定)ニッポノホン(日本蓄音器商会)でも収録している(高橋 2020 参照)。

(4) 多嘉良朝成(兼兄)(1884-1944)

多嘉良朝成は 1884(明治 17)年首里に生まれた。俳優として、球陽座、中座、珊瑚座、真楽座などで活躍し、「美男で美声、歌劇の 2 枚目に出演したが、喜劇俳優としても秀でていた」(那覇出版社編集部編 1992:444)。「1916(大正 5)年琉球新報主催『俳優人気投票』では 20 人中の 1 位となる人気を得る」(日外アソシエーツ編 2010)。

「大正 10 年にカナと結婚してからは、民謡歌手として大活躍する」(大城 1996:21)。「朝成夫妻は、舞台公演の幕間に民謡や

歌劇の名場面の歌を歌い、これが評判となる」(大城 1996:20)。

琉球ツル・レコードで 1934 年歌劇「愛の雨傘」「泊アーカー」「伊江島ハンドー小」をカナと録音し、大衆から絶大なる支持を集めた。さらに、トモエ・レコードでは 75 トラック(1935 年 6 月・8 月新譜)も収録しており、歌劇「泊阿嘉」「伊江島ロマンス」「奥山の牡丹」など沖縄歌劇の代表作を録音した(高橋 2020 参照)。

大城學によると、「朝成夫妻の美声の評判は、たちまち大阪のマルフクレコード経営者・普久原朝喜にも届いた。朝喜は早速、吹き込みのために、朝成夫妻を大阪に招いた。朝成のレコードはよく売れた」(大城 1996:20)という。マルフク・レコードでは 1936 年にカナ、朝喜(マンドリン)、渡慶次憲行(ヴァイオリン)と共に古典、民謡、新民謡、舞踊曲、歌劇を収録している。

(5) 多嘉良カナ子(1899-1971)

1899(明治 32)年沖縄県平良市(宮古島)に生まれた。旧姓は川平で、作曲家・金井喜久子は妹にあたる。「13 歳で養女となり、辻で暮らす。本格的な歌い手を目指して、自ら厳しい訓練をする。大正 10 年、22 歳で朝成と結婚し、民謡歌手として、一躍脚光を浴びる」(大城 1996:24)。「昭和初期ごろ、カナは朝成らと盛興堂歌劇団に加わり、盛んにレコーディングし、活躍した」(大城 1996:22)。

琉球ツル・レコードでは 1930 年八重山民謡《バシン鳥節》(筆者注:鷺の鳥節)》他を単独で録音し、1934 年宮古民謡《多良間ショングナイ節》、歌劇「愛の雨傘」「泊アーカー」「伊江島ハンドー小」を朝成や赤嶺京子らと録音した。さらに、トモエ・レコードでは 60 トラック(1935 年 6 月・8 月新譜)も収録し、地元の宮古民謡《多良間ショングナー》《兼鳥節》他、古典、歌劇を録音した(高橋 2020 参照)。

(6) 玉城盛義(1889-1971)

玉城盛義は明治以降の沖縄芝居を代表する俳優、舞踊家である。1932 年、1936 年琉球ツル・レコードの録音へ参加した。1932 年は大正劇場で真楽座を結成し座長となった時期である。1936 年は日本民俗協会主催「琉球古典芸能大会」(東京:日本青年会館)で舞踊「浜千鳥節」「天川踊り」他を披露し、組踊「銘刈子」にも出演した。1917 年には琉球舞踊の稽古所を開いた。1952 年那覇市に舞踊研究所を開設し、玉城流・玉扇会を通して門下生の育成に力を注いだ。1969 年勲五等瑞宝章を受章した。

(7) 赤嶺京子(後の普久原京子)(1909-1982)

赤嶺京子は 1909(明治 42)年生まれ、「那覇市小祿、字大嶺の出身である。少女のころから民謡が好きで、よく歌っていた」(大城 1996:36)。

1931 年 8 月 6 日、京子を含む伊差川世瑞一行は民俗芸術の会

主催「琉球舞踊古典劇公演会」（東京：日本青年会館）へ出演するため、沖縄から東京へ赴いた。東京ではコロムビア・レコードで伊差川らと古典を録音し、京子は《鳩間節》《濱千鳥節》の歌・三線を担当した（高橋 2016 参照）。

琉球ツル・レコードでは 1934 年多嘉良夫妻と共に歌劇「伊江島ハンドー小」を録音した。1936 年《鳩間節》《濱千鳥節》《遊びしょんがね一節》《恋ぬ花節》、歌劇「喜びの那覇港」「八重山行」「田舎乙女」、舞踊曲「松竹梅」他を師匠の玉城盛義や金春つる子らと収録した。

1927 年普久原朝喜は大阪でマルフク・レコードを設立し、盛んに沖縄音楽のレコードを制作していた。「豊かな声量、そして繊細な表現力で歌っていた京子を、朝喜は引き抜いてマルフクレコードで歌わせた。京子の美声は、たちまち評判となる。昭和 6 年から 10 年ごろにかけて、マルフクレコードの第 1 期黄金時代を築いた」（大城 1996:35-36）。1940 年京子は朝喜と結婚し、朝喜とのコンビで数多くのレパートリーを録音し、大衆から支持された。

一方、舞踊は玉城盛義に師事し、1957 年関西玉扇流沖縄舞踊研究所を開設した後、後進の指導に務めた。

(8) 上間ツル子(金春つる子)(上間郁子)(1907-1991)

1907(明治 40)年国頭郡今帰仁村に生まれ、幼名はつるであった。そのため、レコードには上間ツル子、金春つる子などと記された。上間は 1917 年「玉城盛義氏が舞踊研究所を開設した当初からの弟子」（仲井真 1966 年 8 月 5 日:5）であり、琉球古典舞踊を教わった。

1929(昭和 24)年女性のみの「乙姫劇団」を結成し、上間は座長を務めた。「沖縄各地で巡業、琉球の悲歌劇や『雨月物語』『アラビアン・ナイト』『真夏の夜の夢』などを翻案して公演した」（日外アソシエーツ編 2010 参照）。1982 年勲六等宝冠章を受章した。

(9) 宮平壽郎(宮平寿郎)

宮平壽郎は真楽座の俳優として活躍した。真楽座は「1927(昭和 2)年 6 月、玉城盛義を座長に、那覇市西新町の『大正劇場』で結成された沖縄芝居の劇団…中略…当時、那覇市西本町の『旭劇場』から『新天地劇場』に移り旗揚げした『珊瑚座』と対抗して沖縄芝居の人気を二分した」（那覇出版社編集部編 1992:448）。那覇市歴史博物館 HP 写真アーカイブ(参考 URL 参照)では「真楽座の幹部」（資料コード:02005111）、「真楽座の俳優」（同左:02005112）で宮平の存在が確認できる。

(10) 仲泊兼蒲(1888-1945)

仲泊兼蒲は 1888(明治 21)年沖縄県与那原村で生まれた。1910 年与那原音楽会初代会長・宮城嗣長に入門した仲泊は、後に野

村風与那原音楽会 2 代目会長を務めた。嗣長の弟子・宮城嗣周は仲泊について、「弟子の中で傑出した方で、那覇市石門の盛興堂に招かれてレコーディングをして、その美声は天下に名を揚げました。父嗣長の高弟であります」（宮城 1987:277）と記している。

琉球ツル・レコードでは 37 曲(30 トラック)の古典を録音した。トモエ・レコードでは 1936 年に 37 曲の古典を録音した（高橋 2020 参照）。マルフク・レコードからも招聘され、多数の古典や歌劇「手水の縁」を俳優・伊集亀千代、琴演奏者・国吉つると共に収録した（高橋 2007 参照）。

(11) 又吉栄義

又吉栄義は野村流の創始者・野村安趙の孫弟子にあたる伊差川世瑞に古典音楽を学んだ演奏家である。琉球ツル・レコードでは古典を 47 曲(36 トラック)収録した。284「御前風(其一)かきやで風節」「御前風 其二・三(恩納節, 中城はんだ前節)」では玉城盛重が琴を担当した。なお、トモエ・レコードでは古典の他に、組踊「手水の縁」「花売の縁」の歌三線を担当し（高橋 2020 参照）、コロムビア・レコードでは 1934 年に師匠の伊差川と古典を録音している（高橋 2012a 参照）。

(12) 山盛清吉

「78MUSIC」（参考 URL 参照）によると、山盛清吉はツルレコード赤 1000 特選盤(アサヒ蓄音器)で 1935 年《国境の街》歌:古山静夫(1013-A)を作曲した。さらに、サロンレコード(アサヒ蓄音器)では 1933 年《東海甚句》歌:幾松・長谷川潔(506-A)を作曲した。いずれもアサヒ蓄音器のレーベルから作品を発表している。

5. 琉球ツル・レコード目録の変遷

本項では目録別の特徴を整理し、関連する新聞広告やレコードも紹介する。

5.1 『琉球音譜目録』『新譜目録』

『琉球音譜目録』には 1~20、21~52 の曲目が掲載され、崎濱カメ子、當眞嗣勝、平田秀徳、盛興初音(別名:平良初音)、盛興堂音楽研究会、会員一同により古典や沖縄民謡が収録された。特に、15~20 古典劇組踊「手水の縁」は中村文五郎、當眞、平田、島袋松雄、崎濱により録音された。1928 年 6 月新譜の宣伝広告が 1928 年 9 月 18 日『沖縄昭和新聞』1(図 3 参照)に掲載された。1~20 は既発売の曲目に位置付けられ、1928 年 6 月以前に発売されたと推察できる。そして、21~52 は 1928 年 6 月新譜として発売された。

『新譜目録』は『琉球音譜目録』の裏面であり、既発新譜 53~122、新譜目録 123~202 が掲載された。新吹込者として、多

嘉良兼兄(朝成)、多嘉良カナ子、平良晨盛、板良敷朝望が紹介されている。53～64 古典劇「花売の縁(6 枚組)」は高宮城朝篤、津嘉山朝度、志次眞マツ子、泉川寛興、平良晨盛(盛興堂の責任者)、65～80 古典劇組躍「手水の縁(8 枚組)」は高宮城、津嘉山、盛興堂歌劇員により収録された。85～90 古典劇組躍「忠孝婦人(3 枚組)」には高宮城、津嘉山の他、富原盛勇と平良も参加した。95～122 は富原と嘉手納良芳、端慶山良秀らにより、古典、沖縄民謡、宮古民謡、八重山民謡、歌劇が収録された。

1929 年 4 月 13 日「広告:盛興堂」『琉球新報』4(図 4 参照)には「1928 年 11 月吹込新譜」として 53～122 のジャンル名と曲目が掲載された。広告には番号記載がないため、筆者が目録の番号と曲名を照合した。その結果、53～122 は 1929 年発売だと判断した。この時期のレーベルは写真 1 (盛特 81) を参照されたい。

また、1930 年 6 月 5 日「広告:ツルレコード/発売元 盛興堂」『沖縄朝日新聞』4 には「昭和 4 年度 10 月吹込」の 123～202(筆

者による照合)が掲載されており、1930 年発売だと判断した。同広告には下記の宣伝文が見られる。

皆様の御好評はここ…に大傑作品…特選…電気吹込の魁…生きた声のツルレコード…発音大声明快音盤 2 倍の耐久力…レコード大衆化／売出宣伝発売中…六十余枚数に更に四十枚増 両
□□百枚余 新譜製作尽し…曲数二百余節宣伝発売！

(下線部筆者)(1930 年 6 月 5 日『沖縄朝日新聞』4)

「電気吹込」を強調し、音声の大きさ・明快さ、レコード盤の耐久力の高さを打ち出した。「曲数二百余節宣伝発売」との記述から、既に 200 曲以上の曲目を販売していたと捉えられる。そして、この記述は、同広告に 123～202 が掲載された裏付けとなり得る。この時期のレーベルは、写真 2 (盛特 174)、写真 3 (盛特 181) を参照されたい。



写真 1 高宮城朝篤・津嘉山朝度
SP『辺野喜節/芋又葉節』ツル:盛特 81



写真 2 多嘉良兼兄(朝成)・多嘉良カナ子
SP『薬師堂(百名節・宮古節)』ツル:盛特 174



写真 3 多嘉良兼兄(朝成) SP『センスル節』ツル:盛特 181

5.2 『優秀盤既発売目録』『昭和11年特選新譜目録』(図5参照)

『優秀盤既発売目録』は『昭和11年特選新譜目録』の表面下部と裏面を使用し、「大節」「本場八重山民謡」「端唄」「落語・萬歳」「喜劇・歌劇」「旧歌劇」「組踊」のジャンル別に番号と曲名が掲載されている。1枚1円20銭で販売された。「此の外優秀普及盤が普及盤目録に記載されています」との記述から『普及盤目録』(5.3参照)の存在も確認できる。

203～204、209～210、217～234、372～380、407は仲泊兼蒲、284～369の古典は又吉栄義が収録した。288、302、320、350、356、358、360、364は大山徹・大山音子による代表的な八重山民謡の録音であり、2人は「本場八重山民謡大家」と紹介された。既発売の53～64組踊「花売の縁」、65～80組踊「手水の縁」、85～90組踊「忠孝婦人」も再掲している。

203～380の曲名は、1932年11月6日「広告:昭和7年度吹込新レコード/盛興堂本店」『沖縄毎日新聞』1(図6参照)で確認できる。このうち203～264は1931年7月にハワイの内間商店(6.3参照)で販売されているため、1931年発売と判断した。続く284～380は図6の掲載通り、1932年に発売されたと判断した。

この時期のレーベルは写真4(盛特257)、写真5(盛特262)、写真6(盛特284-B)を、歌詞カードは写真7を参照されたい。

『昭和11年特選新譜目録』には501～510のジャンル、番号、曲名、歌手・演奏者と販売価格1枚1円20銭が記された。さらに、目録の右側には盛興堂音楽部員の集合写真を、左側には玉城盛義、宮平壽郎、赤嶺京子の顔写真も掲載している。琉球ツル・レコードの録音に参加した歌手・演奏者らの大部分が、盛興堂音楽部に属していたと推察される。集合写真では「ツル・レコード」の旗を掲げており、名古屋のアサヒ蓄音器商会で録音した際に撮影した可能性が高い。

また、目録では赤嶺京子を「端唄界の寵児」と銘打ち、大々的に宣伝している。赤嶺は琉球ツル・レコードを代表する女声歌手に位置付けられる。

この時期のレーベルは写真8(盛特509-A)を参照されたい。

『優秀盤既発売目録』『昭和11年特選新譜目録』の裏面には、作成者として次の記録がある。

沖縄県那覇市石門通り
琉球レコード製作並発売元 盛興堂本店
電話 530 番
大阪市東区南久太郎町2丁目
盛興堂大阪配給所 アサヒ蓄音器商会
大阪営業所 電話船場 716 番

1936年当時は那覇市本店だけでなく、大阪のアサヒ蓄音器商会内にも盛興堂の配給所が設けられていた。



写真4 玉城盛義・志慶眞マツ子・盛興堂歌劇団
SP『夜半参り(一)』ツル:盛特257



写真5 平良晨盛・盛興堂歌劇団
SP『新發明(汗水節) 下』ツル:盛特262



写真6 三味・唄:又吉栄義・琴:玉城盛重・盛興堂音楽部
SP『御前風 其二・三(恩納節, 中城はんた前節)』
ツル:盛特284-B

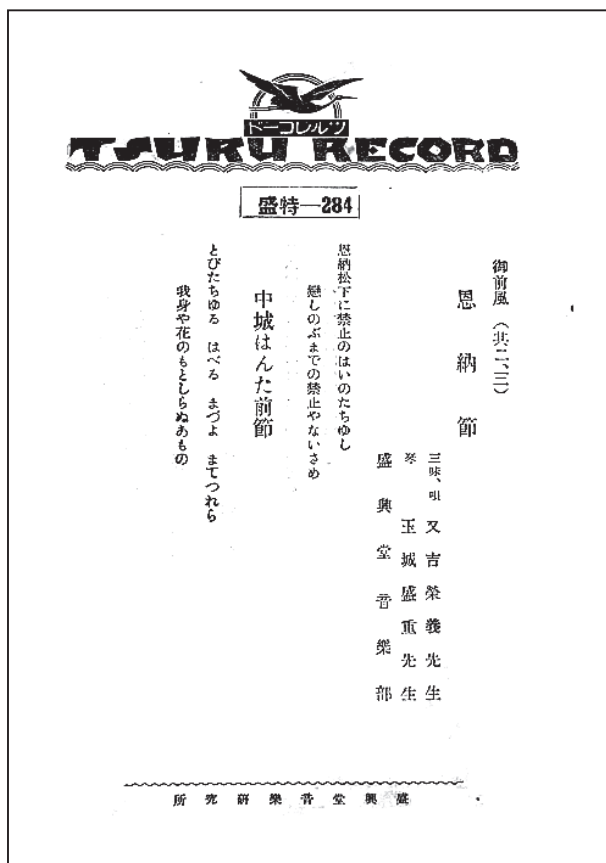


写真7 歌詞カード SP『御前風 其二・三(恩納節, 中城はんた前節)』ツル:盛特 284-B



写真8 玉城盛義・宮平壽郎・赤嶺京子・金春つる子、盛興堂音楽部員 SP『八重山行(一)』ツル:盛特 509-A

5.3 『普及盤目録』

『普及盤目録』では439～476のジャンル、番号、曲名、歌手・演奏者、販売価格1枚1円も確認できる。吹込者として、多嘉

良朝成、多嘉良カナ子、山盛清吉、島袋盛順、上間ツル子(別名: 上間郁子、金春つる)、赤嶺京子、宮平壽郎の名前が挙げられる。

5.4 『昭和11年臨時発売新譜目録』

『昭和11年臨時発売新譜目録』には511～520のジャンル、番号、曲名、歌手・演奏者と販売価格1枚1円20銭も掲載された。1936年9月7日「広告:琉球レコード新譜/盛興堂本店」『沖縄朝日新聞』には511～519の曲名が確認できる。同広告の宣伝文は以下の通りである。

郷土民謡を誇とする我が盛興堂本店では旧盆を飾るべく新趣向の琉球レコード新譜を発売いたしました／或ひは踊りに崎山ゆんた／

或ひは 歌劇に田舎乙女の郷土色／

或ひは 御茶時に万才尋常15年等々／

左の如く傑作盤を臨時発売いたしました

(下線部筆者)(1936年9月7日『沖縄朝日新聞』)

下線部は「昭和11年8月臨時発売新譜」の3曲であり、宣伝文句に曲名を織り込み画期的である。《崎山ゆんた》は八重山民謡、「田舎乙女」は歌劇、「万才尋常15年」は萬才(漫談)である。

「踊りに崎山ゆんた」「歌劇に田舎乙女の郷土色」「御茶時に万才尋常15年」とは、レコードを聴きながら〈踊る〉〈沖縄らしさを感じる〉〈お茶の時間に笑い合う〉と、日常生活におけるレコード活用法を提案している。また、「旧盆を飾るべく」沖縄の盆踊り曲である518《七月エイサー》も新たに録音した。

目録の右側には玉城盛義、宮平壽郎、赤嶺京子、金春つる子の顔写真も掲載した。新譜の録音者の存在をより視覚的に印象づけるねらいが伺える。

広告には520の曲名を掲載していない。だが、同じ目録内で確認できるため、511～520は1936年8月発売新譜であると判断した。

6. 琉球ツル・レコードの活用事例(沖縄・北米・ハワイ)

本項では沖縄・北米・ハワイにおいて、人々が琉球ツル・レコードをどのように活用していたのか、その事例を紹介する。

6.1 1929年「琉球古典劇研究座談会」組踊レコード鑑賞

1929年8月10日伊波普猷、真境名安興主催による「琉球古典劇研究座談会」(於:辻村屋)が琉球新報社の後援により開催された。新聞予告は以下の通りである。

尚ほ当夜は平良晨盛氏の大型蓄音機(組踊、村原(筆者注:大川敵討、忠孝婦人)、手水の縁、森川の子(筆者注:花売の縁)、琉球古謡十数番及俗謡)と多喜良朝成氏の先島民謡もある筈です(下線

部筆者) (1929 年 8 月 10 日『琉球新報』)。

平良晨盛は組踊「忠孝婦人」85-90、「手水の縁」15-20・65-80、「花売の縁」53-64 他古典や民謡のレコードを大型蓄音機で再生し、参加者たちに聴かせる計画を立てていた。座談会の際は、1929 年 4 月に新発売した組踊レコードを宣伝できる絶好の機会であった。

後日、座談会記録(1)～(8)が 1929 年 8 月 12 日～19 日『琉球新報』に連載された。

1929 年 8 月 19 日「研究座談会(8)」には多嘉良朝成・カナ夫妻による宮古民謡、八重山民謡の生演奏について下記のように紹介した。

以上で組踊に対する会員の意見発表は大略つきた。そこで今度は音楽及び舞踊の型を示すことになり劈頭舞踊に通ずる多嘉良朝成氏同カナ子夫婦が三味線の合奏で △鷺の鳥(八重山節)△根間の主(宮古節)△多良間シヨングネー(宮古節)△小浜節(八重山節)△みるく節(八重山節)△トバルマー(八重山節)を唄い その、妙音に会員一同恍惚として酔い拍手を以て賞讃す(下線部筆者) (1929 年 8 月 19 日『琉球新報』1)。

続いて、盛興堂の平良晨盛が大型蓄音機で組踊レコードを再生したことが記されている。

平良盛興堂の大型蓄音機で「花売りの縁」のレコードの演奏ありて一興□添え。今度は琉球音楽の大家城間恒有、伊差川世瑞、池宮城喜輝三氏の「仲間節」「諸鈍」「シヨングネー」の合奏で玉城盛重、新垣松含両氏は諸鈍の型を踊り多嘉良朝成氏は「上口説」玉城盛重氏は「八重瀬の万歳」新垣氏は「万歳」を踊る所ありて後伊差川氏の「述懐」「古代の御前風」多嘉良氏の横笛伴奏で独唱をなし最後に新垣松含氏の新舞踊「アサ堂ヤー」「トバルマー」の発表等ありて午前 2 時 30 分伊波氏閉会の辞を述べて静かに閉会(下線部筆者) (1929 年 8 月 19 日『琉球新報』1)。

平良晨盛が大型蓄音機によって参加者に聴かせようとしたレコードは、もちろん琉球ツル・レコード制作の SP であろう。組踊「花売の縁(6 枚組)」53-64 は 1928 年 11 月に録音し、1929 年 4 月に発売広告が掲載された。座談会には新譜の宣伝も兼ねて、平良も録音に参加した SP「花売の縁」を持参したと推察される。

6.2 沖縄系北米移民が寄贈した琉球ツル・レコード

沖縄県南風原町津嘉山出身・大城孝永(当時 86 歳)(カリフォルニア州コンコード市在住)は、1918 年アメリカへ移民後、保管していた「当時のパスポートや村勢要覧、昭和初期の未公開風景写真、レコードなど貴重なものばかり十数点」(1991 年 6 月

29 日『沖縄タイムス』夕刊:7)を 1991 年 6 月 28 日金城義夫南風原町長へ寄贈した。その中に SP レコード 30 枚が含まれていた。

「レーベルは、ツル印レコード(27 枚)、内外レコード(2 枚)、コロムビアレコード(1 枚)。すべて 78 回転盤」(大城 1991 年 7 月 11 日『沖縄タイムス』25)であった。その後、これらのレコードは南風原文化センターへ寄贈された。

1991 年 7 月 24 日「昭和初期のレコードを聴く会」が南風原文化センターで開催され、寄贈された SP レコードを約 70 名が蓄音器で鑑賞した(1991 年 7 月 28 日『沖縄タイムス』24 参照)。

南風原町の移民名簿「アメリカ合衆国本土」の中に、大城孝永に関する記録がある。

○大城孝永 番号:1158/旅券:136205、戸主孝造 2 男、本籍地:津嘉山、13.3 歳、父の呼寄

大正 7 年(1918)7 月 22 日(南風原町史編集委員会編 2006:388)

孝永は 1918 年父・孝造の呼寄せで、アメリカへ移民した。母・カマト、長男・孝仟、二男・孝永(13 歳)の 3 名は 1918 年 6 月 11 日に那覇港を出発し、神戸でパスポートを受け取り、8 月 17 日にサンフランシスコ港に到着した(南風原町史編集委員会編 2006:79 参照)。

それから 13 年後の「1931 年(昭和 6)正月、孝永は儀保福松(字津嘉山)、内間アンコウ(浦添出身)と 3 人で沖縄を訪問した。…中略…母が畑を買い、安定した生活をしているのを見届け、サンフランシスコへと戻った。孝永はこの時、レコードや絵はがきを購入し、北米に持ち帰った」(南風原町史編集委員会編 2006:80)。1931 年沖縄へ帰郷した折に購入したレコードが、1991 年に寄贈したレコードである。購入したのは「全部で 36 枚組だったが、うち残ったのは 30 枚」(1991 年 8 月 1 日『沖縄タイムス』15)だという。「これらは戦前の沖縄民謡や沖縄の風景を知ることのできる大変貴重な資料となった」(南風原町史編集委員会編 2006:80)。孝永がレコードを聴きながら、望郷の想いを募らせていた様子が思い浮かぶ。

筆者は南風原文化センター所蔵 SP レコードを長年調査し、数年前にレコード撮影を完了している。大城孝永が寄贈したレコードも撮影済みであり、本稿に掲載した写真に含まれている。

6.3 ハワイで販売された琉球ツル・レコード

栗山新也の研究によると、ハワイの「ホノルル・ベレタニア街の内間商店は、ツル印琉球レコードの入荷を知らせる広告を『日布時事』(1931 年 7 月 6 日)に出している」(栗山 2015:121)。栗山 2015:124 には【図 4-1】内間商店の広告が掲載された。広告の文字情報は次の通りである。

昭和6年電気吹込 ツル印レコード

琉球音楽 古典劇

野村流後援者 宮城嗣長先生

外吹込者連名(いろは順)

仲泊兼蒲 玉城盛義 多嘉良朝成 高宮城朝篤 富原盛勇

津嘉山朝度 島袋松雄 嘉手納良芳 平田秀徳 仲村文五郎

當眞嗣勝 平良初音 志慶眞マツ子 多嘉良カナ子

大城シズ子 崎濱カメ子 端慶山良秀 盛興堂歌劇団

組踊「銘苅子(羽衣)」……5枚組

「首里城明渡」原作 山里永吉氏 4枚組

「花売之縁」(組踊)……6枚組

「手水之縁」(組踊)……8枚組

◆百言は本品の一聴につきる

▼(筆者注:曲目は略) ▲音譜全部に歌詞添え

ホノルル市北ベレタニア街339 電話68182 内間商店

(下線部筆者)(1931年7月6日『日布時事』)

組踊「花売之縁」のレコード番号は53～64、「手水之縁」は65～80である。▼の曲目をレコード番号と照合したところ、91「姉妹敵討」～95「碁打口説」、203「かぎやで風節」～264「手水の縁くずし」であった。53～64、65～80、91～95は1929年に発売され、目録B・Cで確認できる。203～264は1931年発売で目録Cに掲載されており、「昭和6年電気吹込」に該当する。また、「音譜全部に歌詞添え」とあるため、写真7のような歌詞カードが添付されていた。よって、上記は1929年・1931年発売レコードの宣伝広告である。組踊の演目を前面に打ち出し、歌詞カードも添えて販売していた。

盛興堂について「同店は…中略…海外植民地に進出し南米、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、布哇、南洋方面にも特約店を設け」(1935『関西沖縄興信名鑑』附録3)という解説を先に紹介した。内間商店が琉球ツル・レコードの特約店であったかどうかは不明である。だが、商品を沖縄から輸入し、ハワイで販売していた事実は上記の広告で確認できた。

7. 1932-1934『琉球レコード民謡集 第1～2編』(沖縄県立図書館所蔵)

1932年9月、東京の永盛館出版部が『琉球レコード民謡集 第1編』を刊行した。内容を確認したところ、琉球ツル・レコード発売SPの歌詞集であることが判明した。奥付には編纂者:沖縄民謡同好会、発行者:上原永盛(東京市麹町区飯田町5-35)、発行所:永盛館出版部(東京市麹町区飯田町5-35)、発売所:永盛館書店(沖縄県那覇市東町4-32)とある。

p. 184 には永盛館書店の宣伝広告があり、発売中の沖縄民謡同好会編『沖縄民謡集 第1編』『沖縄民謡集 第2編』『琉球レ

コード民謡集 第1編』が掲載された。これら3冊は「定価各冊30銭/送料各冊2銭」で販売された。一方、琉球音楽研究会編『琉球楽譜全集』は“待望の近刊書”という扱いである。

『琉球レコード民謡集 第1編』の表紙は2人の芸妓が馬首をかたどった板を前帯に固定し練り歩くジュリ馬(那覇市辻町で旧暦正月20日開催の祭祀)の絵が描かれた。内表紙には儀保松男の舞踊「天川踊り」の写真が掲載された。1925年秩父宮殿下が沖縄を訪問した際、首里城内で琉球舞踊を鑑賞し、その記念として撮影された写真である。この写真は絵葉書資料館HP「oky590-Ryukyu 天川 其一 秩父宮殿下台覧舞踏」(参考URL参照)で確認できる。

第1編の目次では全ての曲名が一覧でき、特に、歌劇や組踊の演目には物語に沿った挿入曲も盛り込んだ。目次の曲名と、琉球ツル・レコードの目録を照合した結果、1～102(1926年～1929年発売)、341・352(1932年発売)の歌詞が集録されていた。

p. 186 には盛興堂の広告が掲載され、「琉球レコードの御注文はぜひ盛興堂本店へ」「琉球レコード総目録御一報次第贈呈仕候」という見出しと共に、本店(上之蔵町1-26)と支店(上之蔵町1-54)の住所が記された。『琉球レコード民謡集 第1編』は琉球ツル・レコードのSP販売促進を目的とした歌詞集といえる。

続いて、永盛館出版部は1934年5月『琉球レコード民謡集 第2編』を出版した。奥付の上原永盛と永盛館出版部の住所は番地が「4番地5」へ変わり、永盛館書店の住所も沖縄県那覇市久茂地大通りへ移転した。

『琉球レコード民謡集 第2編』の表紙は蓄音器のイラストと、レコード盤を背景に「天川節」を踊る儀保松男と親泊興照の絵画を使用している。この絵画の元となった写真「秩父宮殿下台覧舞踊 天川 其二」は那覇市歴史博物館HPの写真アーカイブ(資料コード:02003614)や絵葉書資料館HP、田辺1968で確認できる。第2編には盛興堂の広告が掲載していない。

第2編目次の曲名と目録を照合した結果、111～116、118～122(1929年発売)、123～202(1930年発売)の歌詞が集録されていた。いずれも『新譜目録』=Bに掲載されたレコードである。

録音メディア(レコード)と活字メディア(歌詞集)のタイアップによって、レコードをより多くの人々に届け、大衆化させたという琉球ツル・レコードの商業戦略が透けて見える。

まとめ

これまでの考察は以下の5点にまとめられる。

(1) 盛興堂の経営実態

盛興堂は1915(大正4)年に平良晨盛が創業し、時計・貴金属・眼鏡を扱う販売店だった。1933年に晨盛亡き後は長男・晨興が経営を引き継いだ。1935年当時の広告によると、本店(那覇市上之蔵町1-26 石門通り)を拠点に、支店(那覇市上之蔵町1-54 新

天地通り)も設けていた。

今回の調査で1926年～1936年の期間にSPレコード207枚を発売していたことが判明した。父・晨盛が1926年にレコード制作を開始し、長男・晨興が継承した後も、1936年まではレコード事業を展開していた。販路は沖縄県を拠点に海外へも拡大し、ハワイの沖縄系移民の需要を見越してレコードを輸出していたことが、内間商店の新聞広告(1931年7月6日『日布時事』)で明らかになった。

(2) レコード製造・録音はアサヒ蓄音器商会

盛興堂はレコードのプレス製造を名古屋のアサヒ蓄音器商会に委託していた。そして、歌手・演奏者が名古屋まで遠征し、アサヒ蓄音器商会のスタジオで録音していたことも明らかになった。SPレコードは各200枚ずつプレス製造し、販売実績に即してプレス枚数を増産する方法を採用していた。SPのサイズは10インチで、定価は1円40銭～50銭を基本としていた。

アサヒ蓄音器商会は日本で最初の電気吹き込みレコードを製造した会社として知られている。1929年～1932年発売(推定)の琉球ツル・レコードのレーベルにも「電気吹込」と印字され、アサヒ蓄音器商会の「電気吹込」を強調する宣伝活動が反映されていた。

(3) SPレコード207枚のジャンル分類

1926年～1936年に販売されたSPレコード207枚を調査した結果、録音曲目は全349曲52作品(全414トラック)であった。最も収録が多いジャンルは古典で126トラック(30.4%)である。2番目以降は歌劇108トラック(26.1%)、沖縄民謡69トラック(16.7%)、組踊42トラック(10.1%)と続く。歌劇と組踊の合計は150トラック(36.2%)で全体の4割を占め、演劇ジャンルの需要の高さを示している。一方、新民謡は5曲のみであった。

(4) 録音した歌手・演奏者たち

録音した歌手・演奏者の中心人物は多嘉良朝成、多嘉良カナ子、富原盛男、嘉手納良芳、赤嶺京子、玉城盛義、仲泊兼蒲、又吉栄義である。特に、多嘉良夫妻の録音実績はカナ子が54トラック、朝成が52トラックと極めて多い。それに続くのは玉城盛義39トラック、赤嶺京子37トラック、又吉栄義36トラック、仲泊兼蒲30トラックである。だが、琉球ツル・レコードの看板歌手は赤嶺京子であり、歌劇、古典、沖縄民謡、新民謡、舞踊曲と幅広いジャンルで実力を発揮できる女性であった。その後、マルフク・レコードからの引き抜きがなければ、琉球ツル・レコードでより高い実績を重ねたであろう。

また、レコード目録の録音者の欄には「盛興堂音楽部員」「盛興堂歌劇員」などの表記が目立つ。おそらく録音者は盛興堂音楽研究会、盛興堂歌劇団、盛興堂音楽部の一員として名を連ね、

多くの歌手・演奏者を必要とする歌劇や組踊などの収録に参加していた。つまり、盛興堂は録音時に毎回歌手・演奏者を選んでいるのではなく、主な専属メンバーを抱えながら、レコード事業を軌道に乗せていたといえる。

(5) 琉球ツル・レコードの活用事例

平良晨盛は1929年8月10日「琉球古典劇研究座談会」(於:辻村屋)に向けて、組踊「忠孝婦人」「手水の縁」「花売の縁」のレコードを準備し、宣伝の機会を伺っていた。組踊の座談会では研究の一環として、琉球ツル・レコードのSPを聴かせる意図があった。だが、座談会当日は古典や民謡、舞踊の実演に時間を要したため、晨盛は組踊「花売の縁」のレコードのみ大型蓄音機で再生し、参加者が鑑賞した。

また、沖縄系北米移民が沖縄へ帰郷した際、レコードを購入し、その後、北米の沖縄系移民コミュニティで聴かれていた例がある。1918年アメリカへ移民した南風原町津嘉山出身の大城孝永は、1931年沖縄へ帰郷した際、レコード36枚を購入し、その後、アメリカへ持ち帰った。36枚の中に琉球ツル・レコードのSPも含まれており、1991年南風原町へ寄贈され、現在は南風原文化センターに所蔵されている。

謝辞

本論をまとめるにあたり、南風原文化センター、沖縄県立図書館、山城研究所には貴重な文献・音源資料を御提供頂いた。

本研究は日本学術振興会・科学研究費(令和3年度～7年度、基盤研究(C)21K00230:研究代表者・高橋美樹)「沖縄音楽専門レコード会社のディスコグラフィ作成 ―録音産業の歴史的研究―」の助成を受けたものである。

参考文献

- 大城學 1991年7月11日「まぼろしのレコード/60余年前の芸能資料」『沖縄タイムス』p. 25
- 大城學 1993年5月27日「よみがえる歌声―幻のレコード発見をめぐる―(中) 大正末期から昭和初期の民謡事情」『沖縄タイムス』p. 13
- 大城學 1996『沖縄新民謡の系譜』ひるぎ社
- 大城和喜 1993年5月28日「よみがえる歌声―幻のレコード発見をめぐる―(下) 琉球芸能の大全集」『沖縄タイムス』p. 16
- 大西秀紀 2018「東洋蓄音器(オリエントレコード)の社史調査とディスコグラフィの作成」科研:研究課題番号:24520168
- 岡田則夫 1992年3月「第16回 続・蒐集奇談:ツル・レコード他」『レコード・コレクターズ』11巻3号、pp. 107-113
- 岡田則夫 1992年4月「第17回 続・蒐集奇談:アサヒ蓄音器商会のレーベル」『レコード・コレクターズ』11巻4号、p. 84、pp. 98-103

沖縄日報社編 1937『日報の沖縄人名録:昭和12年版』沖縄日報社

沖縄民謡同好会編 1932『琉球レコード民謡集 第1編』永盛館出版部

沖縄民謡同好会編 1934『琉球レコード民謡集 第2編』永盛館出版部

神野三郎翁伝記編集委員会編 1965『神野三郎伝』中部瓦斯

菊池清麿 2015『ツルレコード昭和流行歌物語』人間社

倉田喜弘 1979『日本レコード文化史』東京書籍

栗山新也 2015 大阪大学博士学位論文「芸能実践の豊かさを生きる ―沖縄移民の芸能から広がる人やモノのつながりの研究―」全154ページ

昭和館監修 2003『SPレコード60,000曲総目録』アテネ書房

高橋美樹 2007「沖縄音楽レコード制作における〈媒介者〉としての普久原朝喜 ―1920-40年代・丸福レコードの実践を通して―」『ポピュラー音楽研究』10号、日本ポピュラー音楽学会、pp. 58-79

高橋美樹 2012a「沖縄音楽レコードにおける〈媒介者〉の機能 ―1930年代・日本コロムビア制作のSP盤を対象として―」細川周平編著『民謡からみた世界音楽 ―うたの地脈を探る』ミネルヴァ書房、pp. 175-192

高橋美樹 2012b「異郷で聴く沖縄民謡 ―北米・南米へ越境した丸福レコード―」『高知大学教育学部研究報告』72号、pp. 137-149

高橋美樹 2016「日系新聞にみるブラジル沖縄系移民のレコード制作 ―1930年代～1950年代を中心として―」『高知大学教育学部研究報告』76号、pp. 189-208

高橋美樹 2020「沖縄県立芸術大学附属図書館田辺文庫所蔵・SPレコード目録 ―田辺尚雄旧蔵・最古の沖縄音楽レコードを探る―」『高知大学教育学部研究報告』80号、pp. 255-292

田辺尚雄 1968 東洋音楽学会編『南洋・台湾・沖縄音楽紀行』音楽之友社

辻田真佐憲 2014『愛国とレコード:幻の大名古屋軍歌とアサヒ蓄音器商会』えにし書房

東京蓄音器商組合 1934「全国蓄音器商組合 連合会」『蓄音器時報』1934年4月号

渡久地政司 1993年5月26日「よみがえる歌声―幻のレコード発見をめぐる―〈上〉琉球レコードの出自を求めて」『沖縄タイムス』p. 13

名古屋テレビ放送編 1990『ツルレコード秘話』『歴史ウォッチング part4』ひくまの出版、pp. 172-176

内務省警保局図書課 1934『昭和9年6月蓄音機レコード発行所其他調』内務省警保局

内務省警保局 1938『蓄音機レコード製作所並発行所明細表 昭和13年末現在』内務省警保局図書課

内務省警保局 1981a「昭和9年中に於ける出版警察概観／第5編 蓄音機『レコード』の発行及取締状況並取締に関する法規」『出版警察概観 3』竜溪書舎、pp. 363-395

内務省警保局 1981b「昭和10年中に於ける出版警察概観／第4編 蓄音機『レコード』の発行及取締状況」『出版警察概観 3』竜溪書舎、pp. 559-595

仲井真元楷 1966年8月5日「明治大正昭和名優伝 30／上間郁子丈」『琉球新報』p. 5

那覇出版社編集部編 1992『琉球芸能事典』那覇出版社

日外アソシエーツ編 2010「上間郁子」『新撰 芸能人物事典 明治～平成』

日外アソシエーツ編 2010「多嘉良朝成」『新撰 芸能人物事典 明治～平成』

日本貴金属時計新聞編輯局編 1921『東洋時計貴金属:眼鏡蓄音器商工名鑑』日本貴金属時計新聞社

南風原町史編集委員会編 2006『南風原町史 第8巻 移民・出稼ぎ編 ふるさと離れて』

福岡正太 2007「植民地主義と録音産業:日本コロムビア外地録音資料の研究」『植民地主義と録音産業:日本コロムビア外地録音資料の研究』平成17年度～18年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書、pp. 2-7

細川周平 2007「録音の文化史に向けて―ディスコグラフィ―研究の今日」『植民地主義と録音産業:日本コロムビア外地録音資料の研究』平成17年度～18年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書、pp. 8-11

宮城嗣周 1987『嗣周歌まくら』那覇出版社

森本敏克 1975『音盤歌謡史』白川書院

山崎整 1997年4月20日「関西発レコード120年/第2部:歌謡曲秘話〈12〉/発売禁止曲/狙い撃ちされたアサヒ蓄(名古屋)」『神戸新聞』

山崎整 1999年1月9日～1999年1月31日「関西発レコード120年(埋もれた音と歴史)―第7部:レコード各社興亡秘話〈1〉～〈19〉」『神戸新聞』

山崎整 1999年1月12日「関西発レコード120年/第7部:レコード各社興亡秘話〈4〉/アサヒ蓄音器(上)/中部圏唯一の音盤製造会社」『神戸新聞』

山崎整 1999年1月13日「関西発レコード120年/第7部:レコード各社興亡秘話〈5〉/アサヒ蓄音器(中)」『神戸新聞』

山崎整 1999年1月14日「関西発レコード120年/第7部:レコード各社興亡秘話〈6〉/アサヒ蓄音器(下)/消滅は昭和18年8月」『神戸新聞』

1928年9月6日「広告:盛興堂本店/ツル印レコード/アサヒ蓄音器商会/昭和3年6月新譜案内」『沖縄昭和新聞』p. 1(同広告には1928年9月11日、13日、15日、18日、21日にも掲載)

1929年4月13日「広告:アサヒ蓄音器商会/盛興堂/御大典記念

電気吹込琉球レコード 昭和 3 年 11 月吹込新譜 琉球音楽野村流/花売之縁/手水ノ縁/忠孝婦人』『琉球新報』 p. 4

1929 年 8 月 10 日「広告:琉球古典劇研究会/座談会今晚/主催者:伊波、真境名両氏/後援者:琉球新報社/会場、辻村屋に変更/平良晨盛』『琉球新報』

1929 年 8 月 11 日「広告:琉球古典劇研究座談会/昨晚盛況を極む/平良晨盛』『琉球新報』 p. 3

1929 年 8 月 19 日「舞踊の型を示して/古典の夕終る/出演者の感想の数々/本社後援研究座談会(8)/平良盛興堂』『琉球新報』 p. 1【座談会記録(1)~(7)は 1929 年 8 月 12 日~18 日『琉球新報』紙面欠損のため不明】

1930 年 6 月 5 日「広告:ツルレコード/昭和 4 年度 10 月吹込/新琉球レコード発売/皆様のご好評はここ/発売元 盛興堂』『沖縄朝日新聞』 p. 4

1930 年 7 月 28 日「広告:沖縄特約店発売元/電気吹込レコード発売/ツルレコード/コロムビア/盛興堂本店』『沖縄朝日新聞』(同広告は 1930 年 8 月 2 日他にも掲載)

1931 年 7 月 6 日「広告:内間商店/昭和 6 年電気吹込ツル印レコード』『日布時事』

1932 年 11 月 6 日「広告:昭和 7 年度 吹込新レコード/エレクトロダイナモンド式吹込/琉球レコード新発売御案内/アサヒ蓄音器商会/盛興堂本店』『沖縄日日新聞』 p. 1(同広告は 1933 年 1 月 8 日、1 月 10 日にも掲載)

1934 年 8 月 2 日「先陣は琉球民謡 洩れ音に躍る脚/音の検閲初日風景』『読売新聞』 夕刊、p. 3

1935『関西沖縄興信名鑑』 関西沖縄興信社

1936 年 9 月 7 日「広告:旧盆を飾る/琉球レコード新譜/盛興堂で発売/盛興堂本店』『沖縄朝日新聞』

1991 年 6 月 29 日「昔の写真や貴重品/大城さん(在米)南風原町に贈る』『沖縄タイムス』 夕刊 p. 7

1991 年 7 月 28 日「昭和初期のレコード聴く会/蓄音機で数十曲/南風原文化センター』『沖縄タイムス』 p. 24

1991 年 8 月 1 日「幻のレコードを聴く会』『沖縄タイムス』 p. 15

1993 年 4 月 8 日「大正期の琉球民謡レコード/長野で見つかる/SP 盤が 9 枚』『沖縄タイムス』 p. 25

1993 年 4 月 12 日「“大正の歌声” 里帰り:南風原町文化センター/長野で発見、寄贈/『四季口説』など 9 枚 18 曲』『沖縄タイムス』 p. 18

1993 年 5 月 14 日「幻のレコード聴く:南風原文化センター/大正~昭和の琉球民謡』『沖縄タイムス』 p. 24

参考音源

CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓(上)』(コロムビア、COCJ-30859~60、2000)

CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓(下)』(コロムビア、COCJ-30861~62、2000)

参考 URL

- ・絵葉書資料館「oky590-Ryukyu 天川其一 秩父宮殿下台覧舞踏」
https://www.ehagaki.org/shopping/ea_ja/ea_ja_a10_a1/ea_ja_a10_a1_a3/14343/ (2021 年 8 月 1 日 20:20 閲覧)
- ・那覇市歴史博物館
<http://www.rekishu-archive.city.naha.okinawa.jp>
(2021 年 8 月 2 日 22:20 閲覧)
- ・「78MUSIC」
<http://78music.jp/other4.html> (2021 年 8 月 8 日 12:20 閲覧)
- ・SP 盤雑学ノート
「アサヒ蓄音器商会の沖縄 SP 盤 2012/09/22」
<https://5k953foph738.blog.fc2.com/blog-entry-51.html>
(2021 年 6 月 8 日 12:20 閲覧)



トキ

[illegible]

図3 1928年9月18日「広告：盛興堂本店/ツル印シコード/昭和3年6月新譜案内」『沖繩昭和新聞』p.1

御大典記念電氣吹込
琉球レコード

昭和三年十一月吹込新譜

樂器種類

大傑作品選

西貢 冠新標 趙 關 閣 後 搜 者
球 書 系 軒 村 渡 下 閣

[illegible]

盛興堂本店

電話五三〇三

盛興堂分店

図4 1929年4月13日「廣告：盛興堂／御大典記念電氣吹込琉球レコード」昭和3年11月吹込新譜』『琉球新報』p.4

図5『昭和11年特選新譜目録』琉球ツル・シコロート・盛興堂本店(沖縄県立図書館所蔵)

図6 1932年11月6日「広告:昭和7年度 吹込新レコード/盛興堂本店」『沖縄日日新聞』p.1

表 1 琉球ツル・レコードのディスコグラフィ―(1926～1936) 作成：高橋美樹

レコード番号	曲名	歌手・演奏者	記載ジャンル	分析ジャンル	推定発売年	目録	備考
1	お前風(注:御前風)	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		古典	1926-27	A	
2	上り口説	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		沖縄民謡	1926-27	A	
3	踊りカサヨウ	唄・三味線: 崎濱カメ子, ハヤシ: 島袋松雄	琉球電謡	舞踊曲	1926-27	A	特-3
4	祝節	唄・三味線: 常眞嗣勝, ハヤシ: 島袋松雄	琉球電謡	沖縄民謡	1926-27	A	特-4
5	尾廻小風・大瀬口説	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		沖縄民謡/古典	1926-27	A	
6	場間節	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		古典	1926-27	A	
7	金細工節(合交)(太鼓入)	常眞嗣勝, 崎濱カメ子	琉球電謡	沖縄民謡	1926-27	A	特-7/赤地・金文字
8	伊集草作田節・イケハナリ節(太鼓入)	常眞嗣勝, 崎濱カメ子	琉球電謡	古典/古典	1926-27	A	特-8/赤地・金文字
9	島尻千鳥節	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		沖縄民謡	1926-27	A	
10	白保節・本部手間当小	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		八重山民謡/沖縄民謡	1926-27	A	
11	宮古ネー節・タンチャメー	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		沖縄民謡/沖縄民謡	1926-27	A	
12	仲里節	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		古典	1926-27	A	
13	島尻阿嘉節	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		沖縄民謡	1926-27	A	
14	久米阿知節	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		古典	1926-27	A	
15	「手水の縁」(池ントワ)	中村文五郎, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 島袋松雄, 崎濱カメ子	古典謡組踊	組踊	1926-27	A	
16	「手水の縁」(早作田)	中村文五郎, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 島袋松雄, 崎濱カメ子	古典謡組踊	組踊	1926-27	A	
17	「手水の縁」(仲順)	中村文五郎, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 島袋松雄, 崎濱カメ子	古典謡組踊	組踊	1926-27	A	
18	「手水の縁」(干瀬)	中村文五郎, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 島袋松雄, 崎濱カメ子	古典謡組踊	組踊	1926-27	A	
19	「手水の縁」(仲風)	中村文五郎, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 島袋松雄, 崎濱カメ子	古典謡組踊	組踊	1926-27	A	
20	「手水の縁」(仲風)	中村文五郎, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 島袋松雄, 崎濱カメ子	古典謡組踊	組踊	1926-27	A	
21	九年母木節	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		沖縄民謡	1928	A	
22	七尺サーサー(注:七尺節・サーサー節)	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		古典/古典	1928	A	
23	芋又裏節	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 平田秀徳, 盛興初音, 盛興堂音楽研究会		古典	1928	A	
24	「マミル節」(注:喜歌劇「まるみ加那」)	崎濱カメ子, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		歌劇	1928	A	
25	干瀬節	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		古典	1928	A	
26	ケーヒットリ・伊佐へイヨー	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		沖縄民謡/沖縄民謡	1928	A	
27	伊野波節	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		古典	1928	A	
28	シコライ節(注:シボライ節)・ナンダキ節	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		古典/古典	1928	A	
29	恩納節・謝敷節	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		古典/古典	1928	A	
30	四季口説	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		沖縄民謡	1928	A	
31	中風節(注:仲風節)	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		古典	1928	A	
32	スーリスーライ・デンサー節・スーラシーデー	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		沖永良部民謡/八重山民謡/沖縄民謡	1928	A	
33	稲マヅム節	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		古典	1928	A	
34	桃賣アンホ・カイサレ節	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		沖縄民謡/沖縄民謡	1928	A	
35	恋の花節	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		沖縄民謡	1928	A	
36	大兼久節・子守節	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		古典/古典	1928	A	
37	述懐節	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		古典	1928	A	
38	宮古のアヤゴ	中村文五郎, 常眞嗣勝, 盛興初音, 大城シズ子, 盛興堂音楽研究会, 其外大勢		宮古民謡	1928	A	

39	散山節	中村文五郎、當眞彌勝、盛興初音、大城シズ子、盛興堂音楽研究員、 其外大勢		古典		1928	A	
40	千鳥節	中村文五郎、當眞彌勝、盛興初音、大城シズ子、盛興堂音楽研究員、 其外大勢		沖繩民謡		1928	A	
41	仲間・瓦屋	中村文五郎、當眞彌勝、盛興初音、大城シズ子、盛興堂音楽研究員、 其外大勢		古典/古典		1928	A	
42	シヨングナー節	中村文五郎、當眞彌勝、盛興初音、大城シズ子、盛興堂音楽研究員、 其外大勢		古典		1928	A	
43	長者の大王・鶴龜節(金武・前の浜・早作田・黒島節・ソンパレ節)	中村文五郎、當眞彌勝、大城シズ子		舞踊曲/舞踊曲		1928	A	
44	長者の大王・鶴龜節(金武・前の浜・早作田・黒島節・ソンパレ節)	中村文五郎、當眞彌勝、大城シズ子		舞踊曲/舞踊曲		1928	A	
45	「巨名節」(茶屋節・巨名節・カマヤシナ節)	中村文五郎、大城シズ子	喜劇	歌劇		1928	A	
46	「巨名節」(茶屋節・巨名節・カマヤシナ節)	中村文五郎、大城シズ子	喜劇	歌劇		1928	A	
47	松竹梅蘭節(揚作田・夜雨・浮島・東里節・尾瀬小風節)	中村文五郎、當眞彌勝、大城シズ子		舞踊曲		1928	A	
48	松竹梅蘭節(揚作田・夜雨・浮島・東里節・尾瀬小風節)	中村文五郎、當眞彌勝、大城シズ子		舞踊曲		1928	A	
49	「八重山親アナー」(落語・小浜シヨナガネー)	當眞彌勝、大城シズ子、盛興初音		歌劇		1928	A	
50	「八重山親アナー」(落語・小浜シヨナガネー)	當眞彌勝、大城シズ子、盛興初音		歌劇		1928	A	
51	「尾瀬馬行列」(上)(注:喜歌劇)	盛興初音、大城シズ子		歌劇		1928	A	
52	「尾瀬馬行列」(下)(注:喜歌劇)	盛興初音、大城シズ子		歌劇		1928	A	
53	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(一)仲間節	高宮城朝篤	古典劇	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
54	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(二)金武節	津嘉山朝度	古典劇	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
55	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(三)大浦節	津嘉山朝度、高宮城朝篤	古典劇	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
56	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(四)大綱節・萩堂口説	志次眞マツ子、泉川實興	古典劇	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
57	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(五)早作田節・伊計權節	津嘉山朝度、高宮城朝篤	古典劇	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
58	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(六)乙樽薪木取	平良晨盛	古典劇	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
59	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(七)揚七尺節	津嘉山朝度、高宮城朝篤	古典劇	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
60	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(八)センズル節	志次眞マツ子、泉川實興	古典劇	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
61	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(九)三味線曲	津嘉山朝度、高宮城朝篤	古典劇	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
62	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(十)手瀬節	志次眞マツ子、平良晨盛	古典劇	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
63	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(十一)立雲節	津嘉山朝度、高宮城朝篤	古典劇	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
64	丙寅冠船標準舞踊節組レコード:琉球音楽野村流「花笠の縁(6枚組)」(十二)ジニョウウ節	津嘉山朝度、高宮城朝篤、志次眞マツ子	古典劇	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
65	「手水の縁(8枚組)」(一)池道節・通水節	津嘉山朝度、高宮城朝篤	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
66	「手水の縁(8枚組)」(二)早作田節(上)	津嘉山朝度、高宮城朝篤	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
67	「手水の縁(8枚組)」(三)早作田節(下)	津嘉山朝度、高宮城朝篤、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
68	「手水の縁(8枚組)」(四)仲間節・金武節	津嘉山朝度、高宮城朝篤、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
69	「手水の縁(8枚組)」(五)千瀬節	津嘉山朝度、高宮城朝篤、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
70	「手水の縁(8枚組)」(六)早作田・明笛山戸	高宮城朝篤、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
71	「手水の縁(8枚組)」(七)仲風節	津嘉山朝度、高宮城朝篤、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
72	「手水の縁(8枚組)」(八)散山節	津嘉山朝度、高宮城朝篤、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
73	「手水の縁(8枚組)」(九)七尺節(上)	津嘉山朝度、高宮城朝篤、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
74	「手水の縁(8枚組)」(十)七尺節(下)・子捨節	津嘉山朝度、高宮城朝篤、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
75	「手水の縁(8枚組)」(十一)大曇子	津嘉山朝度、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
76	「手水の縁(8枚組)」(十二)東江節A	津嘉山朝度、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
77	「手水の縁(8枚組)」(十三)東江節B	津嘉山朝度、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
78	「手水の縁(8枚組)」(十四)東江節C	津嘉山朝度、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
79	「手水の縁(8枚組)」(十五)立雲節	津嘉山朝度、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
80	「手水の縁(8枚組)」(十六)立雲節	津嘉山朝度、盛興堂歌劇員	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
81	辺之喜節・芋々集節	高宮城朝篤、津嘉山朝度	琉球音楽野村流/俚謡	古典/古典		1929	B	盛特-81/緑地・金文字/CD 『沖縄音楽の精髄(下)』
82	口説はやし節(目録は「口説はやし」)	盛興堂歌劇員	俚謡	沖繩民謡		1929	B	盛特-82/緑地・金文字
83	御座節・カネヤマ風節	高宮城朝篤、津嘉山朝度、盛興堂歌劇員	琉球音楽野村流	御座衆/古典		1929	B	
84	遊ビシヨナナイ	志次眞マツ子		古典		1929	B	
85	「思孝婦人(3枚組)」(一)谷茶村原妻対面の場よりマルモン迄	高宮城朝篤、津嘉山朝度、富原盛男、盛興堂歌劇員、平良晨盛	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
86	「思孝婦人(3枚組)」(二)谷茶村原妻対面の場よりマルモン迄	高宮城朝篤、津嘉山朝度、富原盛男、盛興堂歌劇員、平良晨盛	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
87	「思孝婦人(3枚組)」(三)谷茶村原妻対面の場よりマルモン迄	高宮城朝篤、津嘉山朝度、富原盛男、盛興堂歌劇員、平良晨盛	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
88	「思孝婦人(3枚組)」(四)谷茶村原妻対面の場よりマルモン迄	高宮城朝篤、津嘉山朝度、富原盛男、盛興堂歌劇員、平良晨盛	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
89	「思孝婦人(3枚組)」(五)谷茶村原妻対面の場よりマルモン迄	高宮城朝篤、津嘉山朝度、富原盛男、盛興堂歌劇員、平良晨盛	古典劇組踊	組踊		1929	B	古典劇保存研究会
90	「思孝婦人(3枚組)」(六)谷茶村原妻対面の場よりマルモン迄	高宮城朝篤、津嘉山朝度、富原盛男、盛興堂歌劇員、平良晨盛	古典劇組踊	組踊		1929	B/C	古典劇保存研究会
91	姉妹飯付・大城コエニヤ節・うりづみこゑにや	盛興堂歌劇員	琉球古典劇	組踊		1929	B	
92	「姉妹飯付」やらし節・ダンジユカリ節	盛興堂歌劇員	琉球古典劇	組踊		1929	B	

93	「願文」(上)(注:喜歌劇)	盛興堂歌劇員	落語・高歳	歌劇	1929	B	
94	「願文」(下)(注:喜歌劇)	盛興堂歌劇員	落語・高歳	歌劇	1929	B/C	
95	「幕打口説」	富原盛勇、嘉納平良芳(嘉手納良芳)、盛興堂歌劇員		歌劇	1929	B	
96	武富節・仲作田節	志慶眞マツ子、嘉納平良芳(嘉手納良芳)		古典/古典	1929	B	
97	今帰仁アッチャ節小	富原盛勇、端麿山良秀、志慶眞マツ子		沖縄民謡	1929	B	
98	浜千鳥節	富原盛勇、端麿山良秀、志慶眞マツ子		古典	1929	B	
99	平屋座節・今年前田節	嘉納平良芳(嘉手納良芳)		沖縄民謡/沖縄民謡	1929	B	
100	小浜節・八重山ジョングナイ節	富原盛勇		古典/八重山民謡	1929	B	
101	「親アシメー」節(上)	富宮城朝徳、津嘉山朝度、外3名/盛興堂歌劇員		歌劇	1929	B/C	
102	「親アシメー」節(下)	富宮城朝徳、津嘉山朝度、外3名/盛興堂歌劇員		歌劇	1929	B/C	
103	国頭サバク節	富原盛勇、盛興堂歌劇員		沖縄民謡	1929	B	
104	琉球音楽野村流:宮古トウガネー	富原盛勇、盛興堂歌劇員		宮古民謡	1929	B	
105	今帰仁宮古トウガネー・伊集ノガマク小節・ペーベ草刈節	富原盛勇、端麿山良秀、志慶眞マツ子、盛興堂歌劇員		沖縄民謡/沖縄民謡/沖縄民謡	1929	B	
106	十七八節・別歌道歌	富原盛勇、端麿山良秀、志慶眞マツ子、盛興堂歌劇員		古典/沖縄民謡	1929	B/C	
107	日間富節	富原盛勇、端麿山良秀、盛興堂歌劇員		沖縄民謡	1929	B	
108	「主と妻節」	富原盛勇、端麿山良秀、盛興堂歌劇員		歌劇	1929	B/C	
109	牧港アソコ節・ドンボン節・ジントーヨー・シタグ口節・兵隊家節・タコヤマー節	富原盛勇、盛興堂歌劇員		沖縄民謡/沖縄民謡/沖縄民謡	1929	B	
110	恋の花節	志慶眞マツ子		沖縄民謡	1929	B	
111	泊高橋節・今帰仁アッチャ節小	端麿山良秀、富原盛勇		古典	1929	B	
112	崎山節	盛興堂歌劇員、志慶眞マツ子		古典	1929	B	
113	大島朝花節・三村踊節・今帰仁アッチャ節小	富原盛勇、端麿山良秀		奄美民謡/沖縄民謡/沖縄民謡	1929	B	
114	祝節・四ツ竹節	志慶眞マツ子、盛興堂歌劇員		沖縄民謡/沖縄民謡	1929	B	
115	越来節	盛興堂歌劇員		沖縄民謡	1929	B	
116	鳩間節	志慶眞マツ子		古典	1929	B	
117	羅親念佛・ヤイサー節(注:エイサー節)	盛興堂歌劇員、嘉納平良芳(嘉手納良芳)		沖縄民謡/沖縄民謡	1929	B	
118	掛歌・早作田節	盛興堂歌劇員、嘉納平良芳(嘉手納良芳)		沖縄民謡/古典	1929	B	
119	綱引歌(行列の曲)	盛興堂歌劇員		沖縄民謡	1929	B	
120	安里屋節	志慶眞マツ子		八重山民謡	1929	B	
121	ランコ節・儀体引節	富原盛勇、盛興堂歌劇員	俚謡	沖縄民謡/沖縄民謡	1929	B	盛特-121/緑地・金文字
122	モチツキ節・ヤーマネー歌・アン小節	盛興堂歌劇員	俚謡	沖縄民謡/沖縄民謡/沖縄民謡	1929	B	盛特-122/緑地・金文字
123	トバルマー節・取リタル金ハ節		八重山民謡	八重山民謡/沖縄民謡	1930	B	
124	ヤキナクワワデーサー節(注:屋敷名くわデーサー)		大島民謡	古典	1930	B	
125	久場山越地節・川良山節		八重山民謡	八重山民謡/八重山民謡	1930	B	
126	カヌサマー節・目出度節		八重山民謡	八重山民謡/八重山民謡	1930	B	
127	バシン島節	多嘉良カナ子	八重山民謡	奄美民謡/沖縄民謡	1930	B	盛特-127/緑地・金文字
128	大島ヤングウ節・スーリーアガリ節	多嘉良カナ子	琉球端唄(目録は大島民謡)	奄美民謡/沖縄民謡	1930	B	盛特-128/緑地・金文字
129	久場クイヂ節		宮古民謡	宮古民謡	1930	B	
130	兼島節(注:一名:伊良節トウガニー)・仲里節		久米島民謡	宮古民謡/古典	1930	B/C	
131	踊り安里島節・恋の状		八重山民謡	八重山民謡/不明	1930	B	
132	サイサイ節		端唄	沖永良部民謡	1930	B	
133	久米山ハンタ節(注:久米島ハンタ前節)・子守唄		久米島民謡	沖縄民謡/宮古民謡	1930	B	
134	高那節		宮古民謡	八重山民謡	1930	B	
135	感達文言		文言	不明	1930	B	
136	根間ス主節		宮古民謡	宮古民謡	1930	B	
137	踊りアヤク節	盛興堂歌劇員	琉球端唄	舞踊曲	1930	B	盛特-137/緑地・金文字
138	歌劇「日間富節」イリスネ節・宮古ネー節	盛興堂歌劇員	ヨリ舟節	歌劇	1930	B	盛特-138/緑地・金文字
139	小浜節	多嘉良兼兄	八重山民謡	古典	1930	B	盛特-139/緑地・金文字
140	喜劇「情の歌」「チヨキリ節」	多嘉良兼兄、多嘉良カナ子、盛興堂歌劇員	喜劇・歌劇(目録)	歌劇	1930	B/C	盛特-140/緑地・金文字
141	「雑歌笑劇」		狂言	歌劇	1930	B	

142	ミルク節		八重山民謡	古典	1930	B	
143	「仲直り三良小節」	盛興堂歌劇員	喜歌劇	歌劇	1930	B/C	
144	「仲直り三良小節」	盛興堂歌劇員	喜歌劇	歌劇	1930	B/C	
145	「龍屋ノバーバ(ハーリー・叫入)」		喜劇/落語・萬歳(目録)	歌劇	1930	B	
146	「龍屋ノバーバ(ハーリー・叫入)」		喜劇/落語・萬歳(目録)	歌劇	1930	B/C	
147	「泊りアーク(第二浜千鳥)」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
148	「泊りアーク(第二浜千鳥)」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
149	「泊りアーク(第二浜千鳥)」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
150	「泊りアーク(第二浜千鳥)」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
151	「泊りアーク(第二浜千鳥)」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
152	「泊りアーク(第二浜千鳥)」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
153	「泊りアーク(第二浜千鳥)」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
154	「泊りアーク(第二浜千鳥)」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
155	「奥山の牡丹」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
156	「奥山の牡丹」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
157	「奥山の牡丹」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
158	「奥山の牡丹」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
159	「奥山の牡丹」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
160	「奥山の牡丹」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
161	「奥山の牡丹」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
162	「奥山の牡丹」(4枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
163	「九年母木節」(2枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
164	「九年母木節」(2枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
165	「九年母木節」(2枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
166	「九年母木節」(2枚組)		歌劇	歌劇	1930	B	
167	「踊男女組合節」(2枚組)伊計雅・伊佐へいヨー・カナサマヨー節	多嘉良カナ子	舞踊節/舞踊曲	歌劇	1930	B	盛特173/緑地・金文字
168	「踊男女組合節」(2枚組)伊計雅・伊佐へいヨー・カナサマヨー節	多嘉良兼兄・多嘉良カナ子	歌劇/慶師堂の一部	歌劇	1930	B	盛特174/緑地・金文字
175	遊ビションガナイ節	多嘉良兼兄	琉球音楽	古典	1930	B	盛特-175/緑地・金文字
176	早作田節・川平節・今三人節	多嘉良兼兄	波之上節	歌劇	1930	B	盛特-176/緑地・金文字
177	遊ビ子持節		琉球音楽	古典	1930	B	
178	ヨイヨイ節		端唄	沖縄民謡	1930	B	伊江島民謡
179	四季口説		琉球音楽	沖縄民謡	1930	B	
180	トウガナイ節・改良ショウウガナイ		宮古民謡	宮古民謡/宮古民謡	1930	B	
181	「センスル節」	多嘉良兼兄	琉球端唄(目録は琉球音楽)	歌劇	1930	B	盛特181/緑地・金文字
182	国頭サバクキ節	盛興堂歌劇員	琉球端唄(目録は端唄)	沖縄民謡	1930	B/C	盛特182/緑地・金文字/CD『沖縄音楽の精髄(下)』
183	越地節		八重山民謡	八重山民謡	1930	B	
184	御物奉行節・取船奉行節		琉球音楽	沖縄民謡/沖縄民謡	1930	B	
185	踊り場間節	多嘉良兼兄	八重山民謡	舞踊曲	1930	B	盛特-185/緑地・金文字
186	下述懐節	多嘉良カナ子	琉球音楽	古典	1930	B	盛特-186/緑地・金文字
187	多良間シヨウガナイ節・前ノ浜節		宮古民謡/古典	宮古民謡/古典	1930	B	
188	奥耶節・坂原口説		琉球音楽	古典/古典	1930	B	
189	久米阿嘉節		久米島民謡	古典	1930	B	
190	二上リ川平節・南嶺節		琉球音楽	古典/古典	1930	B	
191	御前風・カキヤア節		琉球音楽	古典/古典	1930	B	
192	恩納節・中城ヘンタ前		琉球音楽	古典/古典	1930	B	
193	コティ節	多嘉良カナ子	琉球音楽	古典	1930	B	盛特-193/緑地・金文字
194	上り口説	多嘉良兼兄	琉球音楽	古典	1930	B	盛特-194/緑地・金文字
195	踊リクワワデーサ節	多嘉良カナ子	琉球端唄	古典	1930	B	盛特-195/緑地・金文字
196	花風節	多嘉良カナ子	琉球音楽	古典	1930	B	盛特-196/緑地・金文字

197	ムンズル節・芋之葉節	多嘉良カナ子	琉球音楽	古典/古典	1930	B/C	盛特-197/緑地・金文字/CD 『沖縄音楽の精髄(下)』
198	踊り天川節	多嘉良カナ子	琉球音楽	舞踊曲	1930	B/C	盛特-198/緑地・金文字/CD 『沖縄音楽の精髄(下)』
199	百姓口説		琉球音楽	沖縄民謡	1930	B	
200	カラヤ節・シヨンガナイ節		琉球音楽	古典/古典	1930	B	
201	踊り松竹梅(其一):場作田節・東里節	多嘉良兼兄	琉球音楽	舞踊曲	1930	B	
202	踊り松竹梅(其二):赤田尾類小風節・夜雨節・浮島節	多嘉良兼兄・多嘉良カナ子	琉球音楽	舞踊曲	1930	B/C	盛特-201/緑地・金文字
203	かきやで風節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	盛特-202/緑地・金文字
204	コテエ節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
205	白飯節	玉城盛義・嘉手納良芳	沖縄民謡	八重山民謡	1931		盛特205/黒地・金文字
206	「御願立」	盛興堂歌劇団	喜劇	歌劇	1931		盛特206/黒地・金文字
209	干瀬節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
210	七六節・サーサー節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典/古典	1931	C	
211	「首里登り」(上)	盛興堂歌劇団	安富旦流歌劇	歌劇	1931		盛特211/黒地・金文字
212	「首里登り」(下)	盛興堂歌劇団	安富旦流歌劇	歌劇	1931		盛特212/黒地・金文字
217	仲村葉節(上)	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
218	仲村葉節(下)	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
219	御節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
220	天山節・謝歌節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典/古典	1931	C	
221	伊野波節(上)	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
222	伊野波節(下)	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
223	散山節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
224	仲間節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
227	仲間節	仲泊兼蒲・玉城盛義・平良良盛	琉球音楽野村流	古典	1931	C	227-A/黒地・金文字
228	赤田風節	仲泊兼蒲・玉城盛義・平良良盛	琉球音楽野村流	古典	1931	C	228-B/黒地・金文字
231	稲マズム節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
232	チャンナー節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
233	渡瀬節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
234	仲風節	仲泊兼蒲(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1931	C	
239	「夏の娘・夜葉節」	玉城盛義	琉球音楽野村流	歌劇	1931	C	
240	「昭和節・マシヨク節」	志慶眞マツ子	端唄/喜劇・歌劇(目録)	歌劇	1931	C	
245	千鳥節	志慶眞マツ子	琉球音楽	沖縄民謡	1931	C	盛特245/黒地・金文字
246	「談話会に歌」新加那ヨー節/ハイルレー節	玉城盛義・盛興堂歌劇団	沖縄民謡/喜劇・歌劇(目録)	歌劇	1931	C	盛特246/黒地・金文字
253	「綱曳口説(仲直り夫婦)」(上)	玉城盛義・志慶眞マツ子・盛興堂歌劇団	沖縄歌劇	歌劇	1931		盛特253/黒地・金文字
254	「綱曳口説(仲直り夫婦)」(下)	玉城盛義・志慶眞マツ子・盛興堂歌劇団	沖縄歌劇	歌劇	1931		盛特254/黒地・金文字
257	「夜半参り」(一)	玉城盛義・志慶眞マツ子・盛興堂歌劇団	琉球歌劇	歌劇	1931		盛特257/黒地・金文字
258	「夜半参り」(二)	玉城盛義・志慶眞マツ子・盛興堂歌劇団	琉球歌劇	歌劇	1931		盛特258/黒地・金文字
259	「夜半参り」(三)	玉城盛義・志慶眞マツ子・盛興堂歌劇団	琉球歌劇	歌劇	1931		盛特259/黒地・金文字
260	「夜半参り」(四)	玉城盛義・志慶眞マツ子・盛興堂歌劇団	琉球歌劇	歌劇	1931		盛特260/黒地・金文字
261	「新発明(注水節)」(上)	平良良盛・盛興堂歌劇団	琉球喜劇	歌劇	1931		盛特261/黒地・金文字
262	「新発明(注水節)」(下)	平良良盛・盛興堂歌劇団	琉球喜劇	歌劇	1931	C	盛特262/黒地・金文字
263	「手水の縁くずし」(上)	盛興堂歌劇員	喜劇	歌劇	1931	C	
264	「手水の縁くずし」(下)	盛興堂歌劇員	喜劇/喜劇・歌劇(目録)	歌劇	1931	C	
284	御前風(其一)かきやで風節	三味・唄:又吉栄義先生・琴:玉城盛重・盛興堂音楽部	琉球音楽野村流	古典	1932	C	盛特284-A/黒地・金文字/ ♪歌詞カード
284	御前風 其二・三(愚納節,中城はんた前節)	三味・唄:又吉栄義先生・琴:玉城盛重・盛興堂音楽部	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C	盛特284-B/黒地・金文字/ ♪歌詞カード
286	長伊平屋節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C	
286	コテエ節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C	
288	まんかよ節・目出度節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡/八重山民謡	1932	C	
288	まへらじ節・豆と一ま節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡/八重山民謡	1932	C	
289	赤田花風節・仲作田節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C	
289	大瀬口説・大浦節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C	
291	瓦屋節・シヨンガナイ節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C	

291	謝儀・清風節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
298	「農村早起唄」(上)	大山徹・照屋光子	端唄	歌劇	1932	C
298	「農村早起唄」(下)	大山徹・照屋光子	端唄	歌劇	1932	C
299	仲間節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
299	子持節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
302	崎山節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	古典	1932	C
302	殿様節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡	1932	C
307	木伊平屋節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
307	木敷山節・港くり節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
315	晴節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
315	本花風節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
320	興邦国猫小節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡	1932	C
320	黒島口説	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡	1932	C
323	干瀬節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
323	散山節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
326	十番口説	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	沖繩民謡	1932	C
326	阪本節・亀甲節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
329	しよどん節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
329	早作田節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
331	伊集早作田節・安波節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
331	ながらた節・東里節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
336	金細工節	盛興堂歌劇員	端唄	沖繩民謡	1932	C
336	越来節	盛興堂歌劇員	端唄	沖繩民謡	1932	C
338	儀保引小節・山原江間當節	照屋光子	端唄	沖繩民謡/沖繩民謡	1932	C
338	泊アーカーの唄	照屋光子	端唄	沖繩民謡	1932	C
339	本嘉手久節・江左節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
339	世栄節・神城節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
340	宮古ネー節	照屋光子・盛興堂歌劇員	端唄/旧歌劇(目録)	沖繩民謡	1932	C
340	糸壳節	照屋光子・盛興堂歌劇員	端唄/旧歌劇(目録)	歌劇	1932	C
341	熊小そり唄	盛興堂歌劇員	端唄/喜劇・歌劇(目録)	沖繩民謡	1932	C
341	西武門節	盛興堂歌劇員	端唄/喜劇・歌劇(目録)	新民謡	1932	C
344	恋ぬ花節	照屋光子	端唄	八重山民謡	1932	C
344	遊びしよがねー節	照屋光子	端唄	古典	1932	C
346	遊びちやちや小節	盛興堂歌劇員	端唄	沖繩民謡	1932	C
346	形見踊り節	盛興堂歌劇員	端唄	沖繩民謡	1932	C
350	鳩間節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	古典	1932	C
350	港節(注:湊節)	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡	1932	C
352	移民行進曲	盛興堂歌劇員	端唄/喜劇・歌劇(目録)	沖繩民謡	1932	C
352	志情節・肝持節	盛興堂歌劇員	端唄/喜劇・歌劇(目録)	沖繩民謡/沖繩民謡	1932	C
353	昔はべら節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
353	十七八節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
355	遠渡節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
355	仲風節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
356	安里島節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
356	トバアラマ節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡	1932	C
358	まさかい節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	古典	1932	C
360	興邦国ショングナー節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡	1932	C
360	丸島盆山節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡	1932	C
361	大兼久節・伊集ぬ木節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
361	御縁節・揚高欄久節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
364	仲見ぬスベヤ節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡	1932	C
364	古ぬぬ浦橋ゆげ節	大山徹・大山音子(本場八重山民謡大家)	本場八重山民謡	八重山民謡	1932	C
365	百里節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
365	長さんなー節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
367	萬才かふす節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
367	道輪口説・早口説	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C
369	茶屋節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
369	今風節	又吉栄義(琉球音楽野村流師匠)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
372	恩納節・中城ハンタ前節	仲泊兼浦(琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典/古典	1932	C

372	長平屋節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
374	干瀬節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
376	赤サクラデサ節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
377	子母節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
378	踊りクラデサ節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典	1932	C
378	ナガラタ節・梅島福久節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典・古典	1932	C
378	五宝節・ショウガネー節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典・古典	1932	C
380	辺野喜節・手文集節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典・古典	1932	C
380	御縁節・本嘉手久節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典・古典	1932	C
384	「入聖」(上)	宮平壽郎・多嘉良朝成・多嘉良カナ子	喜歌劇	歌劇	1934	C
384	「入聖」(下)	宮平壽郎・多嘉良朝成・多嘉良カナ子	喜歌劇	歌劇	1934	C
392	「かながなと」(上)	宮平壽郎・多嘉良カナ子	喜歌劇	歌劇	1934	C
392	「かながなと」(下)	宮平壽郎・多嘉良カナ子	喜歌劇	歌劇	1934	C
396	「伊良波多嘉良ぬタンメー」(上)	宮平壽郎・多嘉良朝成・多嘉良カナ子・赤瀬京子	喜歌劇	歌劇	1934	C
396	「伊良波多嘉良ぬタンメー」(下)	宮平壽郎・多嘉良朝成・多嘉良カナ子・赤瀬京子	喜歌劇	歌劇	1934	C
407	大兼父節・本歌山節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	古典・古典	1934	C
407	島尻千鳥節・浜千鳥節	仲泊兼浦 (琉球音楽野村流大家)	琉球音楽野村流	沖縄民謡/古典	1934	C
418	ぬんぬくぞいぞい	宮平壽郎・多嘉良朝成・多嘉良カナ子	端唄/喜劇・歌劇(目録)	沖縄民謡	1934	C
418	「ゆしや思鶴」	宮平壽郎・多嘉良朝成・多嘉良カナ子	端唄/喜劇・歌劇(目録)	歌劇	1934	C
419	前又海節	多嘉良カナ子	八重山民謡	八重山民謡	1934	C
420	四季口説	多嘉良カナ子	多嘉良朝成	沖縄民謡	1934	C
426	長者ぬ大主	宮平壽郎・赤瀬京子	端唄/旧歌劇(目録)	舞踊曲	1934	C
426	踊り加那ヨ一節	宮平壽郎・赤瀬京子	端唄/旧歌劇(目録)	舞踊曲	1934	C
428	新浜出発	宮平壽郎・多嘉良朝成・多嘉良カナ子	端唄/喜劇・歌劇(目録)	不明	1934	C
428	トウガニー節	宮平壽郎・多嘉良朝成・多嘉良カナ子	端唄/喜劇・歌劇(目録)	宮古民謡	1934	C
436	敵討口説・八重瀬口説	多嘉良朝成	端唄	沖縄民謡/八重山民謡	1934	C
436	トババレー節	多嘉良朝成	端唄	八重山民謡	1934	C
438	江間當節・月ス夜節	多嘉良カナ子・多嘉良朝成	端唄	沖縄民謡/沖縄民謡	1934	C
438	宮古ネー節・道歌	多嘉良カナ子・多嘉良朝成	端唄	沖縄民謡/沖縄民謡	1934	C
439	上り口説	多嘉良朝成・山盛清吉・島袋盛順	端唄	古典	1934	D
440	下り口説	多嘉良朝成・山盛清吉・島袋盛順	端唄	古典	1934	D
441	踊り加那ヨ一節	多嘉良カナ子・上間ツル子・島袋盛順	端唄	舞踊曲	1934	D
442	踊り天川節	多嘉良カナ子・上間ツル子・島袋盛順	端唄	舞踊曲	1934	D
443	白雲節	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	端唄	沖縄民謡	1934	D
444	踊り千鳥節	島袋盛順・多嘉良朝成	端唄	舞踊曲	1934	D
445	仲里節	多嘉良カナ子・山盛清吉	久米島民謡	古典	1934	D
446	伊佐へいヨ一節	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	久米島民謡	沖縄民謡	1934	D
447	「蒙の雨傘」	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	新作歌劇	歌劇	1934	D
448	「縣道節」	山盛清吉・上間ツル子・多嘉良朝成	新作歌劇	歌劇	1934	D
449	「百名節」(上)	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	喜歌劇	歌劇	1934	D
450	「百名節」(下)	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	喜歌劇	歌劇	1934	D
451	ヒユク節(注:比翼節)	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	喜歌劇	沖縄民謡	1934	D
452	バシぬ島節	多嘉良カナ子・上間ツル子・多嘉良朝成	喜歌劇	八重山民謡	1934	D
453	スーリースーライ・スラシデ節	多嘉良朝成・上間ツル子	喜歌劇	沖永良部民謡/沖縄民謡	1934	D
454	桃売アソ小節	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	喜歌劇	沖縄民謡	1934	D
455	久米阿嘉節	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	喜歌劇	古典	1934	D
456	多良間ショングナイ節	多嘉良カナ子	喜歌劇	宮古民謡	1934	D
457	六角堂節	多嘉良朝成	喜歌劇	沖縄民謡	1934	D
458	ミルク節	上間ツル子・多嘉良朝成	喜歌劇	古典	1934	D
459	踊りアヤク節	多嘉良朝成・山盛清吉	喜歌劇	舞踊曲	1934	D
460	花風節	多嘉良カナ子・上間ツル子	喜歌劇	古典	1934	D
461	御物奉行節	多嘉良朝成・上間ツル子	喜歌劇	沖縄民謡	1934	D
462	踊りクラデサ二節	多嘉良カナ子・上間ツル子	喜歌劇	古典	1934	D
463	「泊アーカー」(一)	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	歌劇	歌劇	1934	D
464	「泊アーカー」(二)	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	歌劇	歌劇	1934	D
465	「泊アーカー」(三)	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	歌劇	歌劇	1934	D
466	「泊アーカー」(四)	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	歌劇	歌劇	1934	D
467	「泊アーカー」(五)	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	歌劇	歌劇	1934	D
468	「泊アーカー」(六)	多嘉良朝成・多嘉良カナ子	歌劇	歌劇	1934	D

469	「泊アーカー」(七)	多嘉良朝成, 多嘉良カナ子	歌劇	歌劇	1934	D
470	「泊アーカー」(八)	多嘉良朝成, 多嘉良カナ子	歌劇	歌劇	1934	D
471	「伊江島ハンダー」(一)	赤嶺京子, 多嘉良朝成	悲歌劇	悲歌劇	1934	D
472	「伊江島ハンダー」(二)	多嘉良カナ子, 多嘉良朝成	悲歌劇	悲歌劇	1934	D
473	「伊江島ハンダー」(三)	多嘉良カナ子, 赤嶺京子, 宮平壽郎	悲歌劇	悲歌劇	1934	D
474	「伊江島ハンダー」(四)	多嘉良カナ子, 赤嶺京子, 宮平壽郎	悲歌劇	悲歌劇	1934	D
475	「伊江島ハンダー」(五)	多嘉良朝成, 多嘉良カナ子, 赤嶺京子	悲歌劇	悲歌劇	1934	D
476	「伊江島ハンダー」(六)	多嘉良朝成, 多嘉良カナ子, 赤嶺京子	悲歌劇	悲歌劇	1934	D
501	「遊園節」	唄: 赤嶺京子, 三味線: 玉城盛義	八重山民謡	古典	1936	E
502	「花笠節」	唄: 赤嶺京子, 三味線: 玉城盛義	旅情小唄	古典	1936	E
503	「遊びしよがね一節」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	女情恋歌	古典	1936	E
504	「恋花節」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
505	「ランク節・今三人」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
506	「居しどわかめゆる」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
507	「職業口説」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
508	「夢節」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
509	「初恋の唄」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
510	「魚売アソシ」(上)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
511	「魚売アソシ」(下)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
512	「喜びの那羅港」(上)旅行き成功帰郷の巻	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
513	「喜びの那羅港」(下)旅行き成功帰郷の巻	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
514	「國頭サバクキ」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
515	「鶴龜唄」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
516	「八重山行」(一)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
517	「八重山行」(二)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
518	「八重山行」(三)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
519	「八重山行」(四)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
520	「田舎乙女」(一)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
521	「田舎乙女」(二)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
522	「田舎乙女」(三)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
523	「田舎乙女」(四)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
524	「伊計舞節」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
525	「ムンジュール節・半々集節」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
526	「金細工節」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
527	「川平節」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
528	「松竹舞」(上)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
529	「松竹舞」(下)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
530	「間遠婚禮」(上)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
531	「間遠婚禮」(下)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
532	「尋常十五年」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
533	「崎山ゆんた」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
534	「七月エイサー」(上)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
535	「七月エイサー」(下)	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
536	「思案節」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
537	「失恋の唄」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
538	「安里屋ゆんた」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E
539	「越来節」	唄: 赤嶺京子, 伴奏: 盛興堂音楽部員	端唄	古典	1936	E